

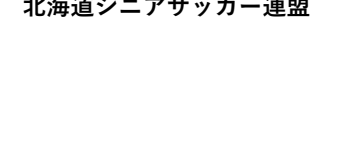
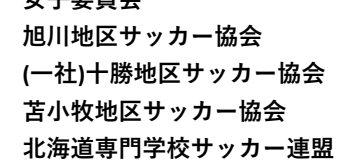
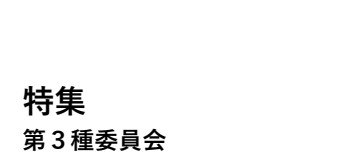
HKFA

要覧

2025



United by Football



特集

第3種委員会

女子委員会

旭川地区サッカー協会

(一社)十勝地区サッカー協会

苫小牧地区サッカー協会

北海道専門学校サッカー連盟

北海道シニアサッカー連盟

JFAの理念

サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、
人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献する。

JFAのビジョン

サッカーの普及に努め、スポーツをより身近にすることで、
人々が幸せになれる環境を作り上げる。
サッカーの強化に努め、日本代表が世界で活躍することで、
人々に勇気と希望と感動を与える。
常にフェアプレーの精神を持ち、国内の、
さらには世界の人々と友好を深め、国際社会に貢献する。

JFAのバリュー

エンジョイ	スポーツの楽しさと喜びを原点とすること
プレーヤーズファースト	選手にとっての最善を考えること
フェア	オープンかつ誠実な姿勢で公正を貫くこと
チャレンジ	成長への高い志と情熱で挑戦を続けること
リスペクト	関わりのあるすべてを大切に思うこと



ホームページ公開用/目次

会長挨拶		1
特集		
	公益財団法人北海道サッカー協会 第3種委員会	3
	公益財団法人北海道サッカー協会 女子委員会	5
	加盟団体 旭川地区サッカー協会	7
	加盟団体 (一社)十勝地区サッカー協会	9
	加盟団体 苫小牧地区サッカー協会	11
	加盟団体 北海道専門学校サッカー連盟	13
	加盟団体 北海道シニアサッカー連盟	15
公益財団法人北海道サッカー協会 各種委員会の取り組み		18
加盟団体 15地区サッカー協会から		24
加盟団体 各種連盟から		38
データベース	2024年度	
	事業結果報告	49
	北海道出身各カテゴリー日本代表	56

※個人情報を除く内容を公開しております。



フットボールで繋いでいく

日頃より、本協会の活動に温かいご支援とご理解を賜り、心より御礼申し上げます。

この度、北海道におけるサッカーの取り組みと未来への展望を広く共有する機関誌を刊行できますこと、大変嬉しく思っております。本誌では、私たちの活動の歩みを振り返りながら、各地域の取り組みや大会の成果、育成年代の発展的な動きなど、北海道サッカーの記録を余すところなくお届けいたします。

本協会では、2025 年度から「HKFA 中期ビジョン」を制定し、北海道サッカーの持続的な発展のため、次の 4 つの柱を据え、さらなる前進を目指しております。

1. **選手の強化** : 全国ベスト 4 以上を目指す
2. **財務体質の強化** : 自主財源の獲得
3. **登録者数の維持** : 普及活動と戦略的投資
4. **HKFA 組織の強化**: 地区協会・各種連盟・各種委員会との連携強化など

これらの取り組みは、選手、指導者、審判、保護者、地域の皆さま、そしてボランティアの皆さまのご協力なくしては成り立ちません。皆さまお一人おひとりのご支援と情熱が、北海道サッカーの未来を明るく照らしておりますことに、改めて深く感謝申し上げます。

今後とも、北海道サッカーのさらなる発展に向け、皆さまとともに歩みを進めてまいりたいと存じます。本誌がその一助となれば幸いです。

最後になりますが、本誌の編集にご尽力いただいた関係者の皆さまに心より御礼申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

公益財団法人北海道サッカー協会

会 長 越 山 賢 一

特 集



第3種委員会の取り組み



女子委員会の取り組み



旭川地区サッカー協会の取り組み



(一社)十勝地区サッカー協会の取り組み



苫小牧地区サッカー協会の取り組み



北海道専門学校サッカー連盟の取り組み



北海道シニアサッカー連盟の取り組み



【第3種委員会】

第3種年代のより良いサッカー環境構築を目指して



第3種委員会 委員長 大石橋 計幸

日頃より第3種委員会の事業にご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

2025年度、北海道カブスリーグU15は第19回、同U13は第17回を数え、5ブロックカブスリーグも第17回または第18回が開催中です。15地区FAにおいても、毎週のように地区カブスリーグの熱戦が繰り広げられております。

コロナ禍を何とか乗り越え、リーグ戦文化が定着して間もなく節目の20年が経とうとしておりますが、他地域に先んじて、この広大な北海道での第3種年代トップリーグ＝北海道カブスリーグを根付かせた諸先輩に改めて敬意を表するところであります。

この場をお借りして、以下5点記します。

①北海道・ブロック・地区カブスという各リーグ戦において、2ndや3rdチームを編成して出場する場合、例えば累計出場時間上位10名のプロテクト選手とはならない11番目のFP選手が、1stチームの試合に僅か数分間でも交代出場した場合、同日または翌日に行われる2ndチームでの試合には一切出場できないという縛りを2024年度から撤廃しました。同日連日に行われる異なる2つのリーグ戦において、計1試合分の試合時間までであれば出場できることとした訳です。

従来通り選手のオーバーワークを防ぐ観点を大切にしつつ、クラブユース連盟加盟・中体連加盟の別を問わず、大所帯のチームにおいて、一部選手の出場時間が著しく短くなっていた状況を是正いたしました。

②昨今報じられています通り、部活動の「地域移行」ではなく、「地域展開」という表現を使うべしとのことですが、この時代の流れの中で、市町村や校長会が主導する「拠点校方式」によるチームが増加傾向にあります。在籍中学校にサッカー部がない生徒にも公式戦出場の機会を提供でき、勤務先の中学校にサッカー部がなくても、志のある教員の方々には拠点校チームの指導者となっていただける環境が整いつつあります。

少子化が急速に進み、教員の働き方改革も叫ばれる中、数年前までは考えられなかった、10校以上の中学校に在籍する選手からなる、そして、指導者が10数名という中体連加盟チームが誕生しています。

カップ戦・リーグ戦を問わず、ほぼすべての公式戦で、ベンチ入りできる指導者は5名まで、選手は20名（先発11名＋交代要員9名）まで、と開催要項に明記してきました。それに拠り、参加申込データの指導者欄は5名分としてきましたが、時代に合わなくなってきました。

また、遅きに失してしまいましたが、特にクラブユース連盟加盟のチームの中には、日常的に6名以上で指導されているチームも多く、その点ももっと早くから考慮すべきでありました。

2025年度シーズン開幕時に露呈した案件ですが、ひとまず、6名以上の指導者がいらっしゃるチームには、リーグ戦担当者に指導者追加のご連絡をいただいたところです。各リーグ戦において、シーズンを通して登録5名の指導者

だけがベンチ入りできるのではなく、登録された全指導者の中から、各節 5 名までベンチ入りできる、ということを明記した開催要項や参加申込データを整備し、2026 年度シーズン開幕までに周知徹底いたします。

なお、長期間で開催するリーグ戦以外の公式戦に関しては、従来通り指導者登録 5 名まで、とする予定です。

③この「地域展開」について、北海道内のまさに地域によって若干差異があると思われます。

札幌市立中学校に教員として勤務する者として、札幌市内の多くの中学校ではまだ単独 1 校で部活動が成立する、まだ何とか指導者のなり手もある、部員数がその競技に必要とする人数に満たない年度のみ近隣の中学校同士で「合同チーム」を編成すればよい、という考え方が大勢を占めている、と感じています。

「拠点校方式」が導入されていない札幌市ですが、まずは指導者不足解消のために、外部指導者登用の制度が整備されています。それに対して、学校規模が急速に小さくなっている地域では、部活動を存続させるために、待ったなしの取組を進めてくださっております。

行政規模による進捗状況の差を理解しつつ、現場の声を少しでも発信するべく、すでに創意工夫に溢れる実践を進めていらっしゃる皆さまから学ばせていただき、第3種委員会としても、積極的に情報収集をすすめ、情報交流を通じて前進してまいりたいと存じます。

なお、「拠点校方式」から、部活動を中学校から完全に切り離す「地域クラブ」へと、さらに舵を切ることがなかなか進まない理由のひとつは、教育公務員としての給与に加えて支給される土日祝日の部活動指導手当に代わる、指導者への手当の財源にあるものと思われます。

受益者負担というひと言で片付けることができない悩ましい問題です。「拠点校方式」でも、単独 1 校でのチームでも、部活動での 1 年間の活動費は、地域クラブが発足しますと、そのクラブ会費の月額に相当する程度で、家庭の経済的負担が増大すること必至、とよく耳にしますところ です。

すでに地域クラブがいくつか発足し始めていますので、先駆的な実践から学ばせていただき、知恵を出し合い、第3種委員会がサッカーをやりたい中学生にその環境を提供することに汗をかいてまいりたいと存じます。

クラブユース連盟加盟チームを運営されている皆さまが長年積み重ねてこられたことにもヒントが数多くあると思いますので、チーム第3種として取り組んでまいります。

④この 2 年間ほど、MWO の積極的配置に取り組んでまいりました。第3種委員会、15 地区 FA 第3種委員長会議でも実践交流を進めております。

前述の地域展開同様、こちらも MWO を務めていただいた方への謝金や旅費等捻出のために、すべて大会参加料値上げで済ませてよいものか悩むところではあります。

年間を通じて、すべての公式戦で、が理想だと思いますが、第3種年代のリーグ戦では、JFA がフェアプレーデイズとして力を入れている 9 月に MWO 配置を特に推進しています。

特筆すべきは、旭川地区 FA の積極的な取組です。MWO を配置する試合を積極的に増やしたことで、指導者のベンチマナー向上のみならず、選手のモチベーションが向上し、応援マナーもより良いものへと進化している、という興味深いご報告もいただいております。

CWO の取組と合わせて、第3種委員会として、暴力暴言の根絶やマナー向上のみならず、リスペクト精神が溢れる現場を目指したいと存じます。

⑤北海道の夏は涼しい、とは言いづらい時代となりました。暑熱下におけるトレーニングやゲームの実施に関して、第3種委員会としてのガイドラインを作成して周知徹底しております。会場ごとに WBGT 計を準備し、その数値による判断基準を統一していますが、指導者の皆さまの、選手の健康面や安全管理に対する意識が年々高まっていることを肌で感じているところです。

サッカー競技のみならず、今夏の全中(全国中体連)における暑熱対策が大きく報道されたところですが、JFAも、2025 年度中に女子委員会、技術委員会の下に「ゲーム環境部会」を新設し、女子・U18・U15・U12 ごとに、ゲーム環境改善に取り組む、とのこと です。

他地域の好事例を学び、北海道地域のゲーム環境をより良いものにしていきたいと考えております。

プレイヤーズファーストの観点が欠落しないよう、中学生年代のより良いサッカー環境の構築に努めてまいります。

皆さま、引き続きよろしくお願い申し上げます。

【女子委員会】

女子委員会事業の「現状打破」



女子委員会 委員長 中川 綾子

2020 年度以来の約 5 年間で（公財）北海道サッカー協会女子委員会として行う事業は増加しています。今回、このように女子委員会に焦点を当てただけのページをいただいたので、この機会に 2020 年度以降増えた新しい事業について皆様にご紹介させていただきたいと思います。

(1)JFA U-15 女子サッカーリーグ北海道

2020 年度よりスタートしました。それまで U-15 年代の女子といえば、U-15 女子サッカー選手権以外は大人の女子選手と一緒に活動するか、中学生男子と一緒に 3 種中体連・クラブのチームに入って活動することが多かったのですが、U-15 年代女子チームが集まってリーグ戦を行うことになりました。新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて開始時期がずれるなど順調なスタートとは言えませんが、参加チームは少しずつ増加し、2025 年度現在では 11 チーム（1 部リーグ 6 チーム、2 部リーグ 5 チーム）が参加しています。少子化の影響もあり、合同チームが増えています。U-15 年代の女子選手がサッカーをする機会を充実させる大事な大会となっております。

(2)U-15 女子サッカー選手権・5 ブロック予選

前述の JFA U-15 女子サッカーリーグは高円宮妃杯 JFA U-15 女子サッカー選手権大会の北海道に当てられた 2 枠

の内の 1 代表が決まる大会ですが、もう 1 つの代表は U-15 女子サッカー選手権大会北海道大会で決まります。男子と違い、今まで北海道の女子大会では地区・ブロック予選を行う大会は無かったのですが、U-15 女子選手権の 5 ブロックの予選を行うことにしました。

ブロック内に所属する 2～4 チームでの予選ではありますが、予選を勝ち抜くという経験はこの大会でしかできないため、貴重な経験ができる大会となっております。

(3)道新カップ北海道女子 8 人制サッカー大会

この大会も新型コロナウイルス感染症の情勢で開始・実施を見送る年が続いたのですが、2022 年度から実施できるようになりました。2025 年度には第 4 回大会を迎えます。

各地区協会から 1 チームずつ、8 人制の大会に参加していただき、交流を深めてもらうことが目的となっております。中学生以上の女子選手が参加できる大会で、参加チームは少しずつ増えています。11 人制だと人数を集めるのが難しいというチームもあるため、より多くのチームを集めるために 8 人制で実施しております。いつか 15 地区全てから女子チームが参加してくれるような大会になればと考えております。



(4)大学女子選手権、大学女子フェスティバル

北海道女子サッカーの一番のチーム層の薄いカテゴリーが「大学生」のチームです。ここ 16 年ほど、大学女子選手権が 1 チームしかないため実施できませんでした。その状況に何か手を打てないかと考え、まず当時唯一の大学女子チームだった札幌大学女子サッカー部ヴィスタ主導で「大学女子フェスティバル」を企画し、8～9月の大学が夏休み期間に当たる時期に大学女子チームが数チーム集まってフェスティバルで試合を行いました。現在国民スポーツ大会の成年女子が隔年実施になったため、他地域では8～9月が予選時期に当たる場合もあるため、国民スポーツ大会がある年の実施は難しいのですが、可能な年には継続実施したいところです。

また、大学女子選手権は 2024 年度に文教大学が学連に登録し参加したことで 16 年ぶりの北海道予選を実施できました。そこには大学女子チーム創出制度の活用もあり、HKFA 女子委員会事業で取り組んだ地道な活動が実を結んだことにもなりました。大学女子選手権の継続及び新規チームの発掘が課題となるため、是非北海道内の大学に、「大学女子チーム創出制度」を活用していただきたいと思います。

(5)U-18 女子サッカーリーグ

U-15 女子サッカーリーグの開始や北海道女子サッカーリーグがセントラル方式から HOME & AWAY で実施するようになるなど、北海道の女子サッカーのリーグ戦に変革がもたらされる中、U-18 年代(高校、クラブ)でもリーグ戦を創出する流れが全国的にできました。北海道でもその流れに乗って 2022 年度より U-18 女子サッカーリーグを行うようになりましたが、もともと北海道女子サッカーリーグに参加する高校・クラブチームも多かったため、年代別リーグを単独で行うのには特に日程調整で労力を要する状況になっています。1 部、2 部の合計 11 チームで行うなど参加

チーム数が多い大会ですが、今後は参加チームのニーズや他の大会との兼ね合いを見ながらより良い形での実施を模索しているところです。

(6)JFA 女子サッカーデー北海道

JFA は、3月8日の「国際女性デー」に合わせ、この日を「女子サッカーデー」に定め、女性が生き生きと力を発揮できる社会づくりを推進していく活動を行っています。北海道でも、サッカーを通じて女性が輝くため、様々な取り組みを行っています。

2020 年度の「PASS TO THE FUTURE 北海道のフットボールを支える女性たち」という冊子作成を皮切りに、2021～2023 年度はオンライン又は集合型イベントを行いました。2024 年度には「女子サッカーデー北海道×北海道女子フットボールミーティング」ということで技術委員会の女子ユースダイレクターと連携し、「元なでしこジャパン・ドイツW杯優勝メンバー 山郷のぞみさんに学ぶ GK クリニック(実技)・講演会(ハイブリッド)」を行いました。2020 年度に作った冊子は第 2 弾も 2023 年度末に発行しております。

その他、今まで行っていた事業についても参加チームの増加が見られるものがあり、今後も「よりサッカーを楽しめる環境づくり」が求められているところだと思います。

今回タイトルにさせていただきましたが「現状打破」という言葉には、「現状に妥協せず、変化を求めて積極的に行動する」という意味があります。女子委員会の事業も今回紹介させていただいた事業以外にも形式の刷新(例:全道一括で「U-13 女子フェスティバル」を行っていたのを 5 ブロックに分かれて「ステップアップフェスティバル」と形式を変えてさらに広げていくなど)を図ろうと動いているところです。より良い形で女子委員会事業を行うことができるように努めてまいりますので、今後もみなさまのご理解、ご協力、よろしくお願いいたします。



【旭川地区】

旭川地区サッカー協会の現状と課題



旭川地区サッカー協会 理事長 対馬 紀一

2024年の旭川地区サッカー協会の出来事としては、特筆すべきものが4つあります。まず、旭川実業高等学校が全国高等学校総合体育大会(7/27~8/3 福島)に北海道予選会を3年連続で優勝して、8回目の出場を果たすとともに、全日本 U-18 フットサル選手権大会(8/1~4 静岡)や全日本ビーチサッカー大会(10/18~20 沖縄)に出場するなど、いままでのサッカーを越えた新たな道を示してくれた年となりました。



全国高等学校総合体育大会(7/27~8/3 福島)にて



全日本 U-18 フットサル選手権大会(8/1~4 静岡)にて



JFA 第20回全日本ビーチサッカー大会北海道代表決定戦7/20 室蘭にて

旭川工業高等専門学校が2011年以来の全国高等専門学校体育大会(9/14~18 函館)に出場を果たしました。続く、全道高等専門学校(U-19)サッカー新人大会でも2010年以来の優勝を勝ち取り、今後の活躍が期待されるようです。

個人では、菊地花奈選手が U-17 日本女子代表選手として AFC U-17 女子アジアカップインドネシア 2024・FIFA U-17 女子ワールドカップドミニカ共和国 2024 に出場されたほか、マイナビ仙台レディースのトップチームの試合に出場するなど、輝かしい実績を残し、旭川市新人奨励賞を受賞されました。今後の更なる活躍が期待されています。また、旭川実業高校出身の高橋健介氏がフットサル日本代表監督に就任いたしました。今後の活躍を期待しております。



菊地花奈選手、旭川市新人奨励賞を受賞

2024年度登録は、サッカー競技で団体 104 チーム、選手登録数 3,056 名と、昨年度に比べると 6 チームの減少ですが、選手は 56 名の増加となりました。具体的には、4 種少年団の 5 チーム減少が大きく、3 種中学生年代もチーム数の減少こそありませんでしたが、13 チームが合同チームの形で大会に参加しており、チームの再編成および、中学校の部活の動地域移行の動きなど、サッカーを楽しむための環境が変化しつつあることがうかがわれます。2024 年秋には、東川町で中学校部活動の地域クラブ化が実際にスタートしました。他の市町村でもその動きが続くものと思われます。高いレベルのサッカーを目指すことはもちろん、純粋にサッカーを楽しむことのできる環境を整えていくことも大切にしていきたいと考えています。

フットサル競技では、社会人を中心として、27 チームで活動していますが、会場確保も含め、より多くの人々が競技を楽しめるよう環境を整えていくことを目指しています。

施設面では、「花咲球技場の改修」「東光スポーツ公園におけるアリーナの建設」、「花咲陸上競技場の改修」や「旭川市総合体育館の建て替え」などまだまだ解決しなければならないものが多く存在します。2024 年度は、そこに J リーグが 2026 年から 8 月開幕の「秋春制」に移行すること

を受け、J クラブの開幕前キャンプ(長期合宿)誘致活動が展開されました。実際にセレッソ大阪が東川町で夏季キャンプ開催することを発表し、東川町が天然芝ピッチを 2025 年 10 月末に完成させる方針を示しています。旭川市も含め、今後も合宿誘致に関連付けながら、上記課題の解決を目指していくことになります。

協会事業として、コロナ禍以降初めて納涼ビールパーティーおよびクリスマスパーティーをともに開催することができ、やっと平常に戻ったことを実感することができました。しかし、参加者が以前の 6 割にも満たない状況であり、さらなる工夫をして以前にも負けられないサッカーファミリーの交流の場として盛り上げていきたいと、決意を新たにしているところです。

10月の天然芝会場整備ボランティアには、カムイの杜公園および忠和公園両会場合わせて 873 名の参加を得ることができました。

9 月 14 日のリスペクトシンポジウムにおいて、旭川地区のリスペクト・フェアプレーに対する取り組みの紹介がされ、一定の評価を得られたことは、旭川地区サッカー協会としては大変心強いものであり、サッカーの活動における暴力根絶に向けて今後も努力していきたい。



リスペクト・フェアプレーデイズセレモニー 保護者による宣言



リスペクト・フェアプレーデイズセレモニー 宣言後、両チーム選手・審判団、リスペクト旗と共に

【十勝地区】

競技人口の拡大にむけて



一般社団法人十勝地区サッカー協会 専務理事 大橋 稔

平素より本協会の活動に際し格別のご高配を賜り御礼申し上げます。

昨今のサッカーをとりまく環境として、競技者数の減少があげられると思います。当地区でも、全カテゴリーにおいて登録チーム数と登録選手数の両方が減少傾向にあります。

十勝地区協会ではこの現状に歯止めをかけるべく、2025年度より競技人口の拡大につなげる、ファミリー拡大委員会を新設しました。

このことで、これまでもキッズ委員会の事業として実施していた、U-6年代からU-9年代までを対象としたサッカー教室や十勝管内幼稚園、保育園でのキッズ巡回指導の実施に加えて、親子で参加できるサッカーイベントや管内小学校での体育サッカー教室などの新規事業を実施することが出来るようになり、活動に広がりを見せています。

今後も各委員会に繋がりを持たせ、サッカー競技への「興味」と「継続」を促すためのアプローチを行っていく所存です。



ファミリー拡大学校巡回



1種室内サッカー大会

また、従来より実施していた「すきまサッカー」に関して、北海道サッカー協会に新たに部会を新設することが、先日の理事会で承認されました。これは、本協会が取り組んできたことが認められたことであり、今後とも道内各地区のF Aと連携しながら進めていきたいと思います。

今後とも、関係各位の皆様方と、競技人口拡大や競技力向上などに地区一丸となり努力していきたいと考えておりますので、引き続きよろしくお願いいたします。



4 種ジュニアサッカーフェスタ(合同開会式)



高校女子選手権

【苫小牧地区】

次世代に向けて



苫小牧地区サッカー協会 理事長 野田 篤志

昨年度、次世代に向けた協会づくりのスタートの年と位置づけ種々微力ながら取り組んでまいりましたが1年を振り返り成果と課題について報告させていただきます。

まず、大きな改革として全登録チームによる理事総会を廃止し協会組織のスリム化を図ったこと。これは各種別の自主運営の確立の達成が見られたことにより組織の意思決定及び運営のスピードアップを図るために実施いたしました。また新設した広報委員会の充実により長年使用してきたHPを刷新、協会事業状況をより分かりやすく閲覧できるようサッカーファミリー拡大を狙いながら各種SNSによる発信の内容及び数の充実を図ることができてきた。目に見える新しい取り組みの一つとして評価したい。

最重要課題のひとつである事業運営の財源の確保について25年度に向けパートナー事業部を新設、専任者を置きパートナーシップを結んでいただける企業の発掘を狙う。24年度はフットボールデーに2社、フットサルチャレンジデーに1社協賛をいただくことができたので今後その数を増やして行きたい。

もう一つの重要課題である女子の普及拡大については昨年新設した女性理事5名による普及事業部を中心に試行錯誤を繰り返しながら事業運営を行っているがまだ確固たる手ごたえを持つまでには至っていない。継続する中で

見えてくるものを獲得するためにも引き続き活動していきたい。そんな中4種年代の女子が熊谷高瀬杯に優勝し2年連続で琵琶湖カップに出場できたことは地区としても喜ばしいことである。これを受け4種委員会・技術委員会・女子委員会の3委員会の連携を図る作業に入ることができ25年度から4種女子の新しいプロジェクトをスタートさせた。また北海道の交通アクセス等の関係で苫小牧地区は北海道大会の主管地区となることも少なくない中で可能な限り環境整備された大会を目指しています。25年度も4種からシニアまで6大会の主管となっており地区としても全力で受け入れ態勢を整えていこうと考えております。

登録チーム・選手の減少や様々な社会環境の中まずもって地区協会の体質強化が大切であるとして昨年度から取り組んできましたが2年目を迎え、一番の課題はやはり人材の確保と育成であることが明確です。

改革の中、現在苫小牧地区は会長をはじめ30名の理事がおりますが約半数が45歳以下そのうち30代以下が5名と若手の起用に成功してきています。また女性理事登用増を図っていますが5名と現状維持となっています。

ある一定の狙いについては手応えを感じてきていますが持続可能であるかという、ある程度限られた同じ人材に偏った運営になっていることも事実です。

25年度はこの偏りの解消が必須と考えており、そのために更に多くの人材の確保が必要となります。

若手の素晴らしいアイデアもたくさん出てきていますが実行に移せていないことも多くあり、そういった意味でも幅広い人材が必要となります。

次世代につなげる協会づくりのために人材確保、育成こそが今の地区協会にとって最重要課題であることを掲げ一丸となって取り組む所存でございます。



★サッカーde 楽しまナイト★



チャレンジデー



4種・技術・女子プロジェクト「ハマナスガールズ」



フットボールデー

【北海道専門学校サッカー連盟】

これまでの歩みとこれから



北海道専門学校サッカー連盟 理事長 三谷 直人

北海道専門学校サッカー連盟は、1991年4月24日に全国専門学校サッカー連盟発足と同時に誕生しました。「サッカーを通じ、学生の心身の健全な発達、体力の向上及びスポーツ精神の高揚を図り、併せて専門学校教育の充実、親睦に寄与する」という目的でスタートしました。北海道の専門学校進学率が増加するなか、就職・資格取得を目指し、日々学業に励んでいる学生達のリフレッシュの場・交流の場を提供しようという目的でもありました。現在では各種大会運営に関わり、他の種別とも様々な面で協力しながら北海道のサッカー活動の発展に貢献できるよう取り組んでおります。しかし近年では少子化等の影響により専門学校への進学率も低下しており、選手・チーム数の減少が著しく見える形となってきたのが現状です。

新年度における連盟の活動は、4月の理事総会から始まり、春季の「第30回北海道専門学校サッカーリーグ」夏季には「第35回北海道専門学校サッカー選手権大会」さらに「北海道専門学校各種学校連合会フットサル大会」の3つの事業を中心に運営することとなります。

更に今年度、メインの大会となる「第35回全国専門学校サッカー選手権大会」(文部科学大臣杯 全国専門学校総合体育大会 10/6～10)が、宮城県松島町「松島フットボールセンター」で開催されることとなっております。過去北海道大会も第6回、第14回、第19回、第23回、第26

回、第30回(コロナ禍により中止)と5回開催されています。北海道代表チームは27回大会での準優勝が最高成績となっています。

2024年度に静岡県で開催された34回大会は、北海道スポーツ専門学校が北海道代表校として出場しました。昨年の1回戦敗退と悔しい思いをした道スポは、初戦関西地区代表京都医健専門学校に2-0で勝利します。2回戦は東北地区代表仙台大原簿記情報公務員専門学校。お互いに連戦で体力的にも厳しい状況の中90分のゲームを2-2で終わります。延長なしのPKでの決着は12-11。32回大会以来のセミファイナルへの進出を決めました。専門学校大会は日程の都合上ファイナルまでの4日間で4試合という過酷な全国大会となっています。さらに今大会、道スポは都合により大会参加メンバーが11名。他校は交代選手をフルに活用しながら戦ってきます。セミファイナルに進んだ選手たちの疲労はピークに達していました。セミファイナルの相手は、関西地区大阪府代表履正社スポーツ専門学校北大阪校。前半は0-0。疲労のピークに達していましたが、試合ごとに11人の選手たちの一体感が強まり、試合巧者の相手に耐えきりました。後半に2失点してファイナル進出とはなりませんでした。11人での3日間での3試合。会場の役員の先生たちからも称賛されるチームとなりました。翌日の3位決定戦で地元東海地区静岡県代表静

岡医療科学専門大学校に3-0で勝利し、27回大会以来のメダルが授与されました。

「北海道専門学校各種学校連合会フットサル大会」は札幌地区所属学校を中心に多くの学校が集まり、予選リーグ、決勝トーナメントを2日間にて北ガスアリーナ札幌26にて開催することができました。

最後になりますが、参加校、参加人数の減少という課題がありますが、北海道代表チームがファイナル進出・優勝を狙えるよう、春のリーグ戦から学生たちが切磋琢磨できる環境を連盟として準備していきたいと考えております。

今後も学生たちの笑顔を多くの方々と共有していける連盟としてチャレンジしてまいりたいと思います。



【北海道シニアサッカー連盟】

北海道シニアサッカー連盟の現状と今後の展望



北海道シニアサッカー連盟 理事長 佐藤 英隆

平素より北海道シニアサッカー連盟の活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。長年にわたり北海道シニアサッカー連盟の発展に尽力されました松本敏嗣前会長が、2025年1月26日にご逝去されました。

松本前会長の功績と情熱に深く感謝し、謹んで報告いたします。また、松本前会長の遺志を継ぐとともに連盟の更なる発展を目指し、工藤彰一氏が新会長に就任したことを合わせて報告いたします。工藤新会長は、これまで副会長として連盟の運営に携わりシニアサッカーの普及と発展に多大な貢献をされてきました。新体制のもと、生涯スポーツとしてのシニアサッカーの魅力を更に広め、普及振興に尽力してまいります。引き続き、皆様の温かいご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

私は2020年4月に北海道シニアサッカー連盟理事長に就任し、今期で3期目(6年目)を迎えました。理事長就任当初はコロナに翻弄された時期もありましたが、2024年度は全事業を予定通り実施することができました。特筆事項として、2024年6月に秋田県で開催されたJFA第18回全日本O-70サッカー大会でFC70室蘭が第3位という輝かしい成績を収めました。他カテゴリーもこれに続いて行ければと思います。

さて、北海道シニアサッカー連盟は2000年に発足し、2025年度で26年目を迎えますが、まだまだ歴史の浅い組織です。連盟は、新会長1名・副会長2名・理事長1名・副理事長5名のほか、14名の常任理事、14名の理事、会計監事2名、2022年から新設したEA(Executive Adviser:連盟運営や普及等に関するアドバイザー)2名の総勢41名で理事会を構成しています。連盟事業として、全国大会につながる真剣勝負の全道シニアO-40/O-50/O-60/O-

70 サッカー大会、サッカーを楽しむ親睦を深めることが目的の全道シニア8人制オープン大会、北海道シニア8ツア-オープン大会、北海道シニアオープン大会、全道シニアフットサルオープン大会の企画・運営など、競技志向ごとのプレー環境を創出しています。このほか、札幌・道央地区、道南地区、十勝地区、オホーツク地区、釧路地区、根室地区、道北地区で40・50部門のサッカー及びフットサルのリーグを開催しており、60/70以上の部門については、主に札幌・道央地区で女子シニアとも連携し夏と冬のリーグ戦を開催しています。

シニア種の登録状況は、2000年のシニア連盟発足時に11チーム・340名でスタートしたのち、年々増加の一途をたどり、2025年度には137チーム・2800名程度になる見込みで、今後も増加することが予想されます。少子高齢化・人口減少社会に直面しサッカーファミリーの減少も懸念されているなか、シニアカテゴリーは上記のとおり増加の一途をたどり、生涯スポーツとして位置付けられているサッカー界において、シニア世代の果たす役割は大きいと考えます。シニア部門のサッカー環境を充実させ持続可能な組織とする必要があり、以下の項目を当面の課題と捉えて2021年度から勉強会を行ってききましたが、2025年度からは問題点に対する解決策を具現化する取り組みを行っていきたいと思っています。

①10年後のシニア種のあり方、②シニアカテゴリーの普及(ミドル年代からの継続者のスムーズな移行、競技を一時中断した再開者や初心者が入りやすい環境及びニーズにあったサッカーをできる環境の創出)、③女子部門との連携、④審判スキルの向上及び資格保持者の増強、⑤道外地域との交流など

以下に、取り組みの一例を紹介します。

●全道 O80・女子シニアオープン大会【全道 O70 サッカーオープン大会と共催】の開催

現在 80 歳代の公式大会がないため、80 歳代の選手は 70 部門に登録して大会に参加していますが、70 歳代との体力差が大きいと、出場時間が限定的または出場機会が得られない可能性もある。このような状況ではサッカーから引退してしまうことが懸念されています。このため、80 歳代及びプレー機会の少ない 40 歳以上の女子シニア選手が、自分のカテゴリーでいつまでも楽しんでサッカーができる環境を確保することが、北海道シニア年代の活性化並びに北海道サッカー界の登録者増(継続)につながると考え大会を企画しました。

●親睦を目的とした大会の参加資格の緩和

現在シニア種の全大会の参加資格(選手)は、JFA 登録を義務付けていますが、シニア種で登録数を増加させるためには元々サッカーをやっていたが、仕事、家庭等の様々な理由でサッカーをやめている人を掘り起こし、サッカーを再開させることに軸足を置くべきと考えました。サッカー再開者を増やすための一手段として、全国大会に繋がらない親睦を目的とした大会の参加資格に(公財)日本サッカー協会未登録選手も 1 チーム 5 名までの参加を認めることとしたので、これを期にサッカーを再開するきっかけになればと思っています。また、同様の目的の企画として、高校サッカー部 OB 大会等も企画していきと考えております。

●シニア種の全大会の参加資格に健康状態に関する規定を追加

2024 年度のシニア種大会では、大事には至りませんでした。心配停止となる事案が数件発生しました。シニア種の大会では、各大会で極力 AED を設置するようにしていましたが、HKFA 医学委員会とシニア連盟理事(医事)からの助言を受け、血圧コントロールと健康調査票の提出を大会開催要項に記述することになりました。特に健康調査票は、救急車やドクターヘリによるスムーズな対応に繋がればと考えています。

【シニア種の大会開催要項に追記した健康に関する参加資格】

大会参加者及び関係者は、自己責任のもと自身の健康状態には特に留意し、必要に応じて事前に医師の診断を受けるなど、大会参加に支障のないことを確認すること。特に高血圧は突然死の原因である心疾患や脳血管疾患のリスクが高まることから、血圧が 180/110mmHg(家庭血圧 160/100mmHg)以上の場合は血圧をコントロールすること。また、参加チームは、参加選手の持病・内服薬・緊急連絡先などを記載した健康調査票を持参し、受付時に会場運営責任者の確認を受けた後、大会期間中はチームで管理すること。

北海道シニアサッカー連盟ホームページ:

<http://h-seniorsoccer.com/>



2024 年度 第 13 回全道 O-70 サッカーオープン大会
兼 JFA 第 19 回全日本 O-70 サッカー大会 北海道予選
優勝 FC70 室蘭



2024 年度 第 32 回全道 O-60 サッカー大会
兼 JFA 第 25 回全日本 O-60 サッカー大会 北海道予選
優勝 札幌 60CERI 烏(士別市天塩川サッカー場)



2024 年度 第 40 回 全道 O-50 サッカー大会
兼 JFA 第 24 回 全日本 O-50 サッカー大会 北海道予選
優勝 FCK アンフィニ 準優勝 Docon Jack 50、
(北見モイワスポーツワールド)



2024 年度 第 49 回 全道 O-40 サッカー大会
兼 JFA 第 12 回 全日本 O-40 サッカー大会 北海道予選
優勝 北海道オッサンドーレ札幌 40
(千歳市青葉公園サッカー場)

北海道サッカーファミリーへ 情報を発信中



北海道サッカー協会公式



公益財団法人 北海道サッカー協会【公式】
@hokkaidofa



@HokkaidoFA

北海道サッカー協会 技術委員会



北海道サッカー協会 技術委員会
@hkfa_technical



@HKFA_technical

北海道トレーニングセンターハウス 夢きたれ



yumekitare

101544件 フォロワー280人 フォロー中134人

夢きたれ | 北海道サッカートレーニングセンターハウス
札幌サッカー・ユース・ユニオン・バーニアの合併施設
◎ 北海道サッカー協会が運営しています！
★ 会議・研修会・イベントもOK
2名専用1室/4名専用12室/洗面室/シャワールーム/トレーニングルーム/ミーティングルーム2室
食堂/フリーWi-Fi
011-625-1100
平日9:00～18:00
www.hfa-dream.co.jp



@yumekitare

各種委員会の取り組み



第1種委員会



フットサル委員会



第2種委員会



技術委員会



第4種委員会



審判委員会



キッズ委員会



医学委員会



シニア委員会



【第1種委員会】

1 種委員会の現状と取り組みについて



第1種委員会 委員長 高木 真一

第1種委員会は社会人・大学・高専・専門学校・自治体・自衛隊各関係連盟及び関連委員会のご協力の元、2024 年度の各種事業を終了することが出来ました。

第1種所属各連盟主催の全道大会は、道内各連盟・協会関係者のご尽力と参加選手、チームスタッフの熱意により、どの大会も活気のある有意義な大会となっておりました。全国大会においては、第 59 回全国高等専門学校体育大会サッカー競技兼第 57 回全国高等専門学校サッカー選手権大会にて苫小牧工業高等専門学校が準優勝という輝かしい結果を残すことができました。全国自治体職員サッカー選手権で札幌市役所が 2 回戦進出の成績を収めております。デンソーカップチャレンジサッカーでは北海道選抜チームがプレーオフを勝ち抜き本大会に出場できました。

また、第1種内の各種別においても、全国の強豪との対戦を経験すること競技レベルの向上が認められており、2025 年度は全国上位の成績を収めることを期待しています。

また、種別内のチームから J リーグチームへの入団者も多数おります。

登録チーム数及び全道大会参加チーム数の減少等、第1種を取り巻く環境は厳しさが続いておりますが、2025 年度においても所属各連盟で問題点を共有しながら、サッカーを楽しむ続けを忘れずに競技力及び大会運営能力の向上に向けて努力していきたいと思っております。

【第2種委員会】

2024－2025



第2種委員会 委員長 石尾 浩一

2024 年度よりプリンスリーグ 2 部に相当する、高円宮杯 JFA U-18 サッカーリーグ 2024 北海道 FA リーグ(以下 FA リーグ)が開幕した。FA リーグ参加チームには、プリンスリーグ昇格後も戦い続ける力を、FA リーグで培ってほしいというねらいから設立された。2025 年度はプリンスリーグ参加チームが札幌6、道南1、道北1と札幌に集中している半面、FA リーグは札幌1、道南2、道北3、道央1、道東1と 5 ブロックに分散している。広域な北海道において、FA リーグを通してチームや関係者が北海道全体のレベルアップに繋げてほしいと願っている。

年々2 種のチーム数は減少し、2025 年度の高校総体北海道代表は 2 枠から 1 枠となった。また、チーム数の少ない地区は、隣接する地区と予選を統合することとなった。4 種から 3 種と育て上げた選手は、2 種チームがないために活動できない地区も見られている。一方で強豪チームは大型化し、選手が都市部に偏在している。他の都府県とは異なる環境の中で、このような問題と向き合いながらレベルアップを図っていかなければならない。北海道としてどのように進むべきか、今後も模索していく。

【第4種委員会】

子どもたちの笑顔と未来のために



第4種委員会 委員長 尾見 秀樹

このたびの役職改選により、第4種委員長を拝命いたしました。長きにわたり、歴代の委員長をはじめ関係者の皆様が築いてこられた4種年代のサッカーの発展と運営体制や取組をしっかりと引き継いでいきたいと考えております。一方で、子どもたちを取り巻く環境や価値観は時代とともに大きく変化しています。少子化による選手登録数の減少、指導者の働き方改革等、課題も山積みです。これまでの良き伝統を尊重しながら、選手一人ひとりの多様な成長を支える新たな取組や安全・安心な指導環境の整備、指導者や保護者との連携強化とサッカーファミリーの拡大など、現代に寄り添った柔軟な運営を目指してまいります。技術委員会 U12 部会やキッズ委員会、女子委員会等、縦横と繋がりながら、子どもたちの笑顔と未来のために、4種委員会を展開してまいりますので、今後ともご協力のほどよろしくお願いいたします。

【キッズ委員会】

子供たちのために一緒に汗をかきませんか？



キッズ委員会 委員長 遠藤 祥悦

日頃よりキッズ委員会へのご理解とご協力に心より感謝申し上げます。

2025 年度から「インストラクター」は「チューター」へと名称が変更されました。チューターはキッズリーダー養成講座の講師を担い、受講者ではなく「参加者」として、自らの経験を活かしながらチューターと共に学ぶ形式へと移行しました。さらに、これまでの U6・U8・U10 といったカテゴリー別の区分を撤廃し、誰でも自由に参加・経験を積める形となったことで、保護者、学校・幼稚園・保育園の先生方にもぜひ参加いただければ嬉しいです。

巡回指導にも力を入れており、参加園や園児が増加し、サッカーへの理解も広がってきていることを実感しています。こうした活動を通じて、子供たちが主役となり、大人も一緒にボールを追いかけて楽しめる場を提供できればと考えています。忘れてはいけないことは、指導だけでなく子供たちが安心・安全にサッカーを楽しめることが最も大切です。少子化がますます進んでいますが、このピンチをチャンスに変えて、子供たちにサッカーにかかわって欲しいと思っています。

また、生涯スポーツとして、いつでもどこでもだれとでもサッカーができるような環境を皆さんで作っていきましょう。

よろしくお願いいたします。

【シニア委員会】

シニア種の現状と今後について



シニア委員会 委員長 佐藤 英隆

シニア委員会及び道シニア連盟では、全国大会予選となる真剣勝負の全道大会やサッカーを楽しむ親睦を深める大会など、競技志向に応じて大会の企画・運営を行っており、2024年度は全事業を予定通り実施することができました。特筆事項として、2024年度 JFA 第18回全日本 O-70 サッカー大会で FC70 室蘭が第3位という輝かしい成績を収めました。

シニア種の登録状況は、JFA がシニア種登録を開始した 2000 年に 11 チーム・340 名でスタートしましたが、その後増加の一途をたどり、2024 年度は 132 チーム・2824 名となりました。北海道最高齢選手の伊賀猛氏(90 歳)も現役続行中です。

少子高齢化・人口減少社会に直面しサッカーファミリーの減少も懸念されているなか、シニアカテゴリーは増加の一途をたどり、生涯スポーツとして位置付けられているサッカー界において、シニア世代の果たす役割は大きいと考えます。現在 80 歳代の公式大会がないため、80 歳代及び女子シニアの選手が、自分のカテゴリーでいつまでも楽しんでサッカーができる環境を確保することを目的とした企画を 2025 年度に実施予定です。また、シニア種の普及のためには、様々な理由により一度サッカーから離れている再開者を掘り起こすことが重要と考えていますので、そのための企画も検討していきたいと考えています。

【フットサル委員会】

今までの振り返りと今後の展望



フットサル委員会 委員長 野呂 雅友

2022年度より委員長を務めており、今期で2期目となります。まずは、日頃より大会の主管を担っていただいている15地区FAおよび5地区フットサル連盟、運営役員、審判員の皆様に心より感謝申し上げます。着任後の主な取り組みとして、まず組織体制の再構築に着手しました。15地区FAのフットサル委員長を委員に加えることで、情報の伝達や収集がより円滑になり、各地区の実情に応じた大会主管体制が整備されました。また、技術委員会との連携を強化し、同委員会内に10名体制の「フットサル担当」を設置。現在はクリニックやCライセンス認定講習会を中心に、サッカー指導者との相互理解を図りながら、フットサルの技術的な価値を広める活動を進めています。さらに北海道フットサルリーグでは、ホームチームによる音楽やMC、選手紹介、装飾などの演出を取り入れ、観客に楽しんでいただける大会づくりにも取り組んでいます。2025年度には、エスプラダ北海道様の協力のもと、全日本大学フットサル大会の決勝戦をフリーグ前座試合として開催しました。フリーグ仕様の舞台上で大学生がプレーできたことは大変意義深く、今後もこのような取り組みを継続・発展させていきたいと考えています。今後の展望として、フリーグのスケジュールに応じてU-18大会や北海道フットサルリーグの開催も検討中です。現時点での課題は、SNSなどを活用した情報発信の強化であり、これを重点課題として取り組んでまいります。引き続き、15地区FA・5地区フットサル連盟との連携を大切にしながら、次世代を担う委員の発掘・育成を通じて、スムーズな委員会運営の継承を目指してまいります。

【技術委員会】

世界で活躍する選手の育成



技術委員会 委員長 上田 充士

技術委員会では、選手育成(トレセン)、指導者養成、選手強化(国体)、普及の四位一体の活動に取り組んでいます。皆さんすでにご存じの通り、2022年にJFAは取組の指針として「ナショナル・フットボール・フィロソフィーとしての Japan'sway」を発表しました。その指針に基づき、様々な取組を北海道各地で展開しています。

一方で、育成にかけられる経費は年々厳しくなり、以前行っていた海外交流や道外遠征なども再開できていない現状があります。日本代表チームが世界で活躍する中で、男子で北海道出身の選手がワールドカップに出場したのは、中学1年生の途中まで北海道にいた城彰二選手(98年フランス大会)のみです。また、女子についても、現在も第一線で活躍する熊谷選手に続く代表選手の輩出が課題と感じております。このような状況ですが、海外で活躍する選手を北海道から輩出するための環境づくりと指導者養成に力を入れて取り組んでいます。

2027年1月16日・17日にはJFAフットボールカンファレンスが札幌コンベンションセンターを会場に開催されることが決定しました。多くの指導者の皆さんと世界の最先端のサッカーを学びながら、北海道から選手が育つ環境づくりに、これからも取り組んでいきたいと思っております。

【審判委員会】

審判委員会の取り組みと今後の展望



審判委員会 委員長 藤井 陽一

審判委員会では、JFAの理念およびミッションを基盤に、公益財団法人北海道サッカー協会の目標である「審判員の養成と質の向上」に資するべく、「強化・育成・指導者・女子・フットサル」の5部会が連携し、各種事業に取り組んでいます。強化部では、実践経験や研修を通じ、将来の1級審判員の育成を推進。育成部は講習会と大会支援を通じ、審判活動の魅力を次世代に伝え、ユース層への働きかけを強化しております。指導者部は資格更新制度の見直しを進め、継続的な学びの機会を提供。女子部は、女性審判員・指導者の育成と登用に尽力し、全国での活躍を支援しています。フットサル部は、通年で活動可能な審判員の育成と、全国リーグに対応できる人材の輩出を目指しております。今後も「フェアで安心・安全な試合環境」の実現に向け、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

【医学委員会】

医学委員会の活動と今後



医学委員会 委員長 神谷 智昭

医学委員会ではキッズからシニアまで、選手が身体的・精神的に安全・安心にプレーできるメディカルサポートに取り組んでいます。また、選手だけではなく審判、指導者、観客にもサポートの範囲を広げました。その一つとして J F A と連携してスポーツ救命ライセンス講習会の開催、アンチドーピング教育、栄養指導などを実施しています。今後もさらに活動の場を広げていく予定です。

また北海道から日本代表選手を輩出するために、世界基準でのメディカルサポートを目指しています。世界の最先端を導入すると同時に、北海道から世界に発信するような研究活動も行っています。他の委員会や連盟と共に、北海道におけるサッカーの発展に貢献できればと思います。引き続きご協力のほど、よろしくお願い致します。

15地区サッカー協会



(一社)札幌地区



北空知地区



函館地区



千歳地区



小樽地区



道北地区



空知地区



オホーツク地区



釧路地区



根室地区



室蘭地区



宗谷地区



【札幌地区】

「グラスルーツ事業部会」立ち上げにあたって



一般社団法人札幌地区サッカー協会 専務理事・キッズ委員 佐賀 主昌

（一社）札幌地区サッカー協会（以下 本協会）では、ここ数年、「フットボール環境づくり事業」「普及拡大事業」「技術力向上事業」の3つの事業を活動における大切な柱とし、それを支えるための「協会組織づくり」を重点において、活動の充実を図ってまいりました。その中でも、特にフットボール環境を整え、多くの人々にサッカーに興味をもってもらい、楽しんでもらうために、今年度新たに包括的、横断的に協会内の各委員会・種別をつなぐ「グラスルーツ事業部会」をこれまでの「普及部会」の発展的位置付けとしてスタートさせました。折しもこの春、（公財）北海道サッカー協会（以下HKFA）が発表した「HKFA中期ビジョン」の中にも「登録者数の維持」として、普及活動やグラスルーツ活動の重要性が謳われています。本協会としても、このビジョンの達成のために微力ながら後方支援をしたいと考えています。

スポーツ基本法の前文には、「スポーツは、心身の健康の保持増進にも重要な役割を果たすものであり、健康で活力に満ちた長寿社会の実現に不可欠」とであると規定されています。また、室伏広治スポーツ庁長官も令和7年度年頭

のあいさつとして「共生社会や健康長寿社会の実現に資する好事例や先端技術を活用した新しい『する』『みる』『ささえる』等のスポーツに係る取組の発信等を行い、スポーツの多様性や新たな可能性を国内外に訴求したいと思います。」と述べています。本協会としては、サッカーを通じてスポーツに求められていることや、社会情勢にも貢献できる法人でありたいと考えています。誰もが参加できる「する」に対して力を入れていくことはもちろんのこと、「みる」「ささえる」にも力を入れていくことが喫緊の課題であるにとらえています。

そこで、種別を越えた事業の開催、選手・チームの関係者が事業への参加ができる環境づくり、障がい者スポーツ団体との連携、サッカー以外のスポーツ団体との協力、インクルーシブスポーツとしてのウォーキングフットボールの推奨、運営スタッフ・指導者・審判員などの新規開拓や育成などの取組を積極的に進めていきたいと考えているところです。HKFAや道内の他の地区協会とのつながりを大切にしながら、北海道のサッカー、スポーツの盛り上げを後押ししていきたいと思っています。

【函館地区】

函館地区協会について



函館地区サッカー協会 理事長 山下 浩司

函館フットボールパークが共用開始から10年になります。この間、地区の試合のみならず数多くの大会やイベント、ランニングコースの利用や試合の熱心な応援、さらには他種目の世界大会も行われるなど地元根付いた施設になっています。選手やサポーターなど、来場される皆さんが丁寧に使ってくださいことや地区協会所属の皆さんの協力によるものです。特にシーズン直前の除雪作業については都合をつけて集まっていただき汗だくになりながらこなしていただいております、感謝いたします。

さて、女子については競技者のすそ野は広がってきましたが、女子の試合を地区の女子審判員で、また、その運営も女子で行うことができるよう関わる人数を増やしていく取り組みが必要と感じています。

また、ウェルフェアオフィサーについてはマッチ、クラブともに多くの方々が資格を取得されました。今後はどの試合にもウェルフェアオフィサーが設置され、選手が安心して取り組める環境を協力して作っていききたいと思います。

なお、選手や審判員など登録にかかわっては、進学や就職・転勤など、大きく環境が変化する時期に継続されないという状況がありますので地元に残っていていれば種別間で、他地区や他地域への異動は協会間で情報の共有を密にとることで登録減を防ぐ手だてとしたいです。

キッズのフェスティバルや巡回などをとおし、一人でも多くの子どもたちにサッカーをする楽しさ、見る楽しさ、応援する楽しさを伝えていくことが地区の大きな目標であり課題であり、そして役割でもあります。レクリエーションから競技会まで、目標や楽しみは様々ですが、こどもたちがフィールドでボールを追いかける。それがやがてサッカーは生涯続けられるスポーツなのだということにつながっていきます。おとなもこどももみんなが楽しむことができるよう、よりよい環境整備と情報発信に努力していこうと思います。そして創立100周年を見据え、地区協会として小さな課題から大きな目標までしっかり取り組めるよう活動していきたいと思えます。

【小樽地区】

小樽地区サッカー協会の現状と今後の展望



小樽地区サッカー協会 理事長 柴田 靖士

小樽地区では急速に進む少子化により、サッカーチームの休部・廃部や合同化が進み、チーム編成の維持が困難な状況が続いている。小樽市の中学校では部活動の「拠点化」が導入され、通学先に関係なく活動が可能となったほか、余市町では地域クラブが創設され、スポーツに取り組む環境が地域主導で整備されている。一方で、選手数の減少により各種別の間での選手移行に課題があり、継続的な競技環境の維持が求められている。

競技面では、北海道大会や全国大会での活躍が見られ、2024 年度には女子チーム DIVERTI が全国 O-30 女子サッカー大会で 4 位に入賞した。また、CANALE 小樽、北照高校、Regaris 小樽 U-15、北照高校女子、小樽 Corsar' rio などが各トップリーグに参入し続けており、地区としての競技レベルの高さを維持している。

組織面でも活発な取り組みが行われており、審判委員会はオンライン研修やリフレッシュ研修、ユース審判員の育成などに注力。技術委員会ではトレセン活動を中心に選手の発掘・育成を行い、上級ライセンス取得支援を通じて指導者の質も高めている。規律委員会ではウェルフェアオフィサー(WO)の養成を行い、安全で安心な試合環境づくりを推進。クラブ単位での WO 配置もほぼ完了している。

普及活動にも力を入れており、小樽フットサルカーニバルでは多世代が交流。天然芝のグラウンドでの整備活動も住民参加型で行われ、地域とスポーツのつながりを深めている。キッズ委員会では、フェスティバルや園巡回指導を通じて、子どもたちに運動の楽しさを伝え、指導者養成

にも力を注いでいる。幼稚園教諭や学生もキッズリーダー講習に参加し、普及の裾野が広がっている。

また、小樽市出身の J リーガー(菅大輝選手、加藤蓮選手)、WE リーガー(山谷瑠香選手)の国内外での活躍は、地域の誇りであり、若い世代の目標となっている。今後は既存施設の有効活用、リーグ運営環境の整備、さらには各委員会の連携を強化し、幼児からシニアまで誰もが関わられるサッカー文化の継承と発展を目指していく。創立 100 周年に向けて、地域・団体一丸となった取り組みが続いている。



全国大会 第 4 位 DIVERTI



キッズサッカーフェスティバル

【空知地区】

空知地区の現状について



空知地区サッカー協会 理事長 磯辺 正道

空知地区におきましては、近年の人口減少に伴う少子化の進行により、サッカーチーム数および選手数の減少が顕著となっております。また、指導者の確保を含め、多くの課題に直面している状況です。今後、さらなる都市部への人口流出も懸念されており、地域の学校やクラブチームの縮小を想定しなければならない現実があります。このような背景のもと、将来的にはチームの合同・統合、さらには他地域との広域的な連携強化などが求められることも想定されます。しかしながら、そうした困難な状況下においても、各カテゴリーにおいては関係者の皆様の献身的な努力により、選手の育成と地域活動が力強く進められております。

4種(U-12)においては、昨年度の「JFA 第48回全日本U-12 サッカー選手権大会(全道大会)」において、くりやまフットボールクラブが準優勝という素晴らしい成績を収めました。選手数の減少が進む中でも、リーグ戦や学年別大会など、活発な運営が継続されています。

3種(U-15)では、文部科学省が推進する中学校部活動の「地域移行」が2023年度より段階的に進められており、2025年度の完全移行を目指しています。岩見沢FCはその先駆けとして、地域拠点校方式による取り組みが3年目を迎え、地域に根ざした中心的な価値を創出しています。また、中学女子サッカーチーム「岩見沢FC ルファヴェニー

ル」も今年で6年目を迎え、地域を代表するチームとして安定した活躍を続けています。さらに、昨年度より「日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会」の一部を本地区にて開催しており、今年も8月15日～17日に夕張サングリンスポーツヴィレッジおよび栗山ふじスポーツ広場にてグループ予選、19日に決勝トーナメント32を予定しています。協会一同、微力ながら鋭意準備を進めておりますので、皆様方の温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2種(U-18)においては、旧岩見沢東高等学校と旧岩見沢西高等学校の統合により本年4月に新設された北海道岩見沢東高等学校が、全国高等学校総合体育大会サッカー競技空知支部予選にて優勝し、全道大会ではベスト4という快挙を成し遂げました。

1種においても、北海道教育大学岩見沢校およびBTOP北海道が、北海道を代表する強豪チームとして活躍しており、地域に大きな活力を与えてくれています。

最後に、各種別における未来へと続く希望に満ちた活動が、地域全体での支援と連携によりさらに発展することを願っております。そして、選手はもとより、指導者・審判・協会関係者が今後の多様なニーズに柔軟に対応し、空知におけるサッカー活動の持続的発展に繋がることを心より祈念申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。



北海道岩見沢東高等学校 空知支部予選優勝

令和7年度全国高校サッカーインターハイ(総体)
北海道予選ベスト4

【釧路地区】

2024 年度の状況と今後



釧路地区サッカー協会 理事長 川村 淳浩

多年にわたるサッカー／フットサル振興の功績で、令和 6 年度釧路市スポーツ賞が佐藤茂本地区名誉会長に贈呈されました。栄えある受賞式が令和 6 年 10 月 10 日(木)に開催され、多数の出席者の大きな祝福に包まれました。

以下、種別毎に状況等を報告いたします。

キッズでは 4～6 歳を対象としたサッカースクールを毎年複数回開催しており、サッカーを通して運動能力の向上と身体を動かすことの楽しさを体験してもらっています。

女子サッカーでは U-12・U-15・U-18、同フットサルでは U-15 のカテゴリでリーグや大会に参加して善戦しました。また、4 種女子トレセンも継続している他、新たにインスタを開設して活動の様子を積極的に発信しています。

第 4 種サッカーでは U-9・U-10・U-11・U-12、同フットサルでは U-10・U-12 のカテゴリでリーグや大会に参加して善戦しました。また、釧路市と千葉県八千代市との友好都市協定のもと少年少女交歓大会がコロナ禍あけ 6 年ぶりに開催され、サッカー交歓大会では釧路トレセン U-12 の選手が参加して交流を深めました。

第 3 種サッカーでは U-15・中体連、同フットサルでは U-14・U-15 のカテゴリでリーグや大会に参加して善戦しました。また、フットサル U-15 カテゴリの道東ブロック予選と北海道代表決定戦が本地区で開催されました。

第 2 種サッカーでは地区内リーグやブロックリーグの他、釧路地区での各種大会に参加して善戦しました。また、東北海道高校ユースサッカー新人大大会が本地区で開催され

ました。特に、同フットサルでは釧路北陽高校が北海道代表決定戦で準優勝し、第 12 回全日本フットサル選手権大会への出場を決めました。

第 1 種サッカーでは、道東ブロックリーグと社会人リーグに参加し善戦しました。また、同フットサルでは、全日本選手権大会北海道代表決定戦と全道選手権大会一般の部が本地区で開催されました。

シニア種では、2 リーグ構成によるプレミアリーグが開催され、エンジョイサッカーのもと爽やかな汗を流しました。

その他、第 2 回ウォーキングフットボールを開催し、年齢・性別・障がいの有無を問わずサッカーの楽しさを実感してもらうことができました。

2025 年度も各種別のトレセンや地区大会に加えて、サッカーの全道大会・フェスティバルやフットサルの全道大会・北海道代表決定戦・全国大会が本地区で開催される計画となっており、年々増加傾向となっております。これらは、本地区審判委員会をはじめサッカー競技をこよなく愛する関係者が種別を超えて協力し合う本地区最大の特徴によって支えられております。加えて、釧路は夏の平均最高気温が約 21 度であり一年を通して冷涼であることで、選手の安全とパフォーマンスを両立できる環境も大きな要素となっております。今後もこれらの魅力を更に発展させるために、若年層選手・指導者・審判員等の育成強化に加えて、人工芝ピッチの設置に向けた働きかけを積極的に進めていきたいと考えています。

室蘭地区サッカー協会 理事長 橋本 誠司

【北空知地区】

活動の成果と今後の課題について



北空知地区サッカー協会 理事長 鈴木敏之

2024年度の活動と、今後の課題を紹介いたします。

1種のサッカーにおきましては、道北ブロックリーグに参加が1チーム、地区リーグに参加が3チームとなっており、登録チームが減少いたしました。また、フットサルにおきましては、道北ブロックと旭川クリスタルリーグに2チームずつ、地区リーグに10チームの参加があり、前年より4チーム増となり、フットサルにはわりと参加しやすいのかと思われます。

2種についてですが、登録が2チームと寂しい状況です。

そんな中、8月には毎年恒例となっている、北空知サッカーフェスティバルを開催し、4日間で延べ53チームの参加をいただいております。

3種についてですが、登録が4チームとなっており、依然厳しい状況ではありますが、スタッフの創意工夫の元、多くの選手が試合に出場できる機会を設けながら、大会運営を行っております。

4種についてですが、登録5チームと前年に比べ3チーム減となり、大会の開催は全種で1番多いのですが、少子化の波はさらに大きく、キッズ活動の拡充が喫緊の課題と

なっております。また、各チーム間での学年別選手数のバラツキが依然大きく、なかなか拮抗した試合にならない現状となっております。

全道大会の主管についてですが、新たに全道フットサル選手権大会 U-12女子の部を芦別市で開催し、全道各地より15チームの参加をいただきました。また、全道シニアフットサルオープン大会を滝川市で開催し、40才から70才まで各世代合計34チーム、また沢山の女子選手の参加をいただき、盛会裏に終了することができました。

2025年度ですが、8月に芦別市で U-12ガールズゲーム第13回熊谷・高瀬杯、12月には前年に引き続き全道フットサル選手権大会 U-12女子の部、3月には全道シニアフットサルオープン大会を予定しておりますので、本年度も沢山のチームに参加いただきたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

小さな協会ではありますが、色々な工夫をしながら、皆がサッカーを楽しめる環境作りを引き続き進めてまいります。

【千歳地区】

地区の現状と今後の展望



千歳地区サッカー協会 理事長 北国 浩

当地区は、千歳市・恵庭市・北広島市の3市各サッカー協会で構成されております。2024年度のチーム数は41チーム、選手登録数は1359名、3種チームが4チーム減となりました。前年度と比較しますと、選手登録数は12名、チーム数は4チームの減少となっています。3種においては、中体連合同チームの登録が多く見受けられます。4種においては、U9以下世代へ楽しめるサッカーとフットサルの取り組みとして、サマー・ウィンターフェスタを開催しています。試合以外での活動では、審判に対しての接し方や発言、観戦マナーの注意喚起等々を含め、ハンドブック『めざせ！ベストサポーター』を各チームへ配布した他にマッチウェルフェアオフィサー部門を新設、2025年度からは、地

区内の幼稚園や保育園への巡回指導を推進していきます。女子においては、大学女子サッカー部が登録され、初の大学選手権北海道大会に出場しました。また、女子スクール活動や女子トレセン活動も活発に行なっており、特に小学校低学年女子選手の参加が増えており、2025度から女子U15チームを立ち上げ、小・中学生女子選手の普及・拡大により注力していきます。今後の展望として、誰もがサッカーの楽しさに触れられる環境づくりの構築に向けて、各自治体や関係機関との連携による施設整備を進めるとともに、危機感を持って、地区協会と各種年代指導者の力を結集し、サッカーファミリー拡大を目指します。

【道北地区】

道北地区の現状と課題



道北地区サッカー協会 理事長 谷口 直寿

道北地区サッカー協会は、各カテゴリーで登録はあるものの、登録数がチーム・個人とも少ないのが現状で、合同チームで予選参加するなど、工夫を凝らしながらなんとか存続維持に努めていますが、解決策には至っていないのが現状です

対策として、これまで継続して基盤作りのため取り組んできた、キッズ年代の教室やフェスなど普及活動を進めてきました。最近では、参加者も少しずつ増え、4種低学年の促進にも繋がってきているのも見受けられるので、今後もサッカーの楽しさを子供たちに感じてもらい、保護者にも一緒に感じて貰えるよう、様々なアイデアを取り入れ、継続的な活動につながるよう取り組んでいきます。

また、4種に女子が登録されているものの継続的に活動できるような環境が整っていません。今後は少年団活動だけではなく、合同で練習し交流をはかり、女子大会、フェス

に積極参加するなど、3種活動もスムーズに移行できるよう、モチベーションを維持できる取り組みを進めていきます。

さらには、中学校や高校の部活動の地域移行に伴う課題もあり、教育委員会や学校、各自治体など関係機関と協力し、サッカーを安心して継続できるよう、積極的に協会指導者も参入しながら、環境整備を図ってきました。

今後も活動に対して課題も出てきますが、解決に向けて取り組んでいきます。

サッカーがこの地域で維持するためにも、楽しさをあらゆる世代と共有していくため、大人が選手として活躍するだけでなく、審判や指導、大会運営など様々な関わりを持ちながら、基盤を作っていくことが重要と考えています。今後も道北地区協会一丸となって計画を持ちながら、魅力を広められる活動を推進していきます。

【オホーツク地区】

オホーツク地区サッカー協会の現状と課題



オホーツク地区サッカー協会 理事長 中田 孝一

オホーツク地区では、2016年4月に、『16→25プラン』と次の10年に向かって進むために独自のプランを掲げました。「リーグ文化の醸成」、「女子選手数の倍増」、「施設の充実」、「みんなつながっている」を重点課題とし、役員一丸となって取り組んでおり、今年度が計画の最終年度となります。

重点課題の1つである女子選手数の倍増については、難しい状況ではありますが、ガールズサッカースクールを開催するなど、女子委員長や指導者スタッフの尽力により選手数の減少が留められております。

またオホーツク地区から1級審判員を目指し、北海道レ

フェリーアカデミーに参加しております。近年は審判員も減少している中、当協会としても、応援するとともにサポートしていきたいと考えております。

当地区の課題としましては、サッカーに限らずどの競技にも共通します少子化による競技人口の減少が深刻化しており、当協会のサッカー人口も減少しています。平成24年度のピーク時の登録人数の約4割となっております。今後も継続してキッズ年代にサッカーの楽しさを伝えたく幼稚園等への巡回指導やキッズ教室を開催しファミリー拡大などの目標達成に向け進めていきたいと考えております。

【根室地区】

根室地区協会の現状と今後の展望



根室地区サッカー協会 理事長 高橋 勇樹

根室地区サッカー協会の現状としては、昨年同様にチーム数及び選手数の減少が著しく、登録チーム数が減少傾向にあります。

キッズの取り組みとして、積極的な巡回指導及び集合型のサッカー教室を開催し、年に一度キッズサッカーフェスを通じて、試合の楽しさを知っていただく機会としていました。昨年度はさらに、冬期間の取り組み強化及び第４種へのつなぎとして、キッズフットサルフェスを２地域で開催しました。初年度としては、好評であり今後も継続し、根室地区全地域で開催できるよう取り組みを進めます。第４種は、試合数を確保し、いずれの 카테고리 も多く試合に参加することでサッカーの楽しさを伝えることを継続して進めているところです。トレセン活動についても積極的な取組を地区として推進し、他地区との交流から得られるサッカーの楽しさに強さがプラスされるよう活動にアクセントをつけ進めているところです。

現在地区として大きな課題となっていることが、第３種年

代のサッカー競技活動の継続についてです。部活動としてもチーム数が減少傾向にある中、第４種から第３種へ移行した際の試合数が少なくなってしまう問題や地域クラブへの移行など問題点が多く、積極的に地区サッカー協会として関わりを持つ必要があると感じています。そこからつながる２種年代も決してチーム数、登録選手数が多いわけはありませんので、各種別が積極的な取り組みを継続し、自身の市町や管内にとどまることができるよう、魅力ある活動を推進していくことを昨年と同様に長期的な取り組みとして進めていきたいと考えているところです。

地域は広いものの人口は他の地区に比べ少ない地域ではありますが、各種別の中で各カテゴリーの問題点を適切に把握し、目的意識を持ち、地区協会として連携を強化することにより、魅力のあるサッカー活動を推進していくことは可能であると思いますので、更なる深化推進に向け活動を進めていきます。

【宗谷地区】

宗谷地区で出来ること



宗谷地区サッカー協会 理事長 本山 哲司

人口減、人口流出、自然減が加速し深刻な状況となっている宗谷地区ですが、熱き関係者たちの思いで「サッカー人口を増やし、質を上げ、老若男女すべての世代でサッカーに関心が持てる」をテーマに活動しております。

①離島を含む管内全幼稚園、保育所を最低1回は巡回する。また、幼稚園児を対象にした、サッカースクールを開催する。

②巡回授業から少年団へ入団のきっかけを作り、低年齢からのサッカーに携わる機会を創出する。

③トレセン活動を頻繁に行い、常にサッカーを考えさせる環境づくりの構築を設ける。

④全道大会やブロック大会で他地区とのチーム・個人が戦えるチームの育成。

⑤単独チームが作れず、リーグ戦が開催できなかった社会人チームの活動の場を提供し、宗地区独自の1～3種

(トレセンチーム)+女子の合同リーグの創設。

⑥リーグ戦を増やすことでの審判員増加・育成をすることによる質の向上。

⑦指導者・チーム関係者の質の向上。MWO・CWO 取得へ向けての意識改革。

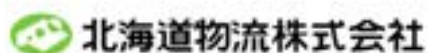
⑧地区協会関係者の交流をする場、コミュニケーションを取り、情報の交換をする場の設定。

以上、この取組に向かい活動していく。その一方、宗谷地区として来年また一人「J」リーガーが誕生することは、大変うれしいことであり、さらなる進化を見せてほしい。そしてその背中を追いかけ次世代の選手が飛び立ってほしいと共に、上記8点を厚く取り組んで行く次第です。

各地区、課題はあろうかと思いますが、サッカーファミリー全員で北海道を盛り上げていきましょう。「日本のてっぺんを熱くする」をテーマに宗谷地区は頑張っていきます。

SOCCER FAMILY

ご寄付をいただいた法人のご紹介



税理士法人 田中会計事務所

富士園産業 株式会社



榊原工業 株式会社



株式会社 誠和工業



北海道川崎建機株式会社

TOA 東亜道路工業株式会社

皆さまからのご寄付は、道内サッカー・フットサル事業の未来につなぐ活動に使用させていただきます。心より感謝申し上げます。

各種連盟

-  北海道社会人サッカー連盟
-  北海道学生サッカー連盟
-  北海道自治体職員サッカー連盟
-  北海道自衛隊サッカー連盟
-  北海道クラブユースサッカー連盟
-  (一社)北海道フットサル連盟
-  北海道チャレンジドサッカー連盟
-  北海道ビーチサッカー連盟



【北海道社会人サッカー連盟】

より良いサッカー環境を目指して



北海道社会人サッカー連盟 理事長 大橋 穰

平素より本連盟の活動に際し格別のご高配を賜り御礼申し上げます。

すでに報道等でご存じの方も多いかと思いますが、日本の最上位に位置するＪリーグの開催実施期間が、2026-27シーズンより、現行の2月開幕で12月閉幕から、8月に開幕し、12月から翌年2月までのウインターブレイク期間を挟み5月閉幕とする欧州に合わせた形のシーズンに移行することとなります。欧州と期間を合わせる事により、海外への移籍が容易になるなどのメリットが考えられます。日本のサッカーにとっては良い事です、北海道などの降雪地域にとっては数々のデメリットが考えられます。現在、道リーグには、Ｊを目指して活動しているチームがあります。Ｊへの昇格には、まずはＪＦＬに昇格することが必要であり、ＪＦＬを勝ち抜いてようやくＪ3 昇格となるのが現行のシステムです。ここで問題となるのは、上位リーグであるＪが秋冬シーズンに移行すると、入替戦の関係から、下位リーグも

シーズンを合わせる必要が生じてきます。そうすると、積雪地域でも冬にリーグ戦を行わなければとなりますが、実際にはグラウンドが使えないため試合ができないのが現実です。ドームのような屋根付きのグラウンドが使用できれば可能ですが、費用の事を考えると現実的ではなく、外のグラウンドで試合ができる期間でやりくりしたとしても、入替戦までの間に数か月のブランクが生じてしまうことになり、対応に四苦八苦しているのが現状です。

北海道においても、現在のブロックリーグの編成見直しに向けて協議が始まるなど、社会人サッカーを取り巻く環境は、変換の移行期にあります。道内各地でサッカーをする社会人の方々が、よりよい環境の中でサッカーに取り組めるよう、連盟役員で頑張っていきたいと思っておりますが、関係の皆様方におかれましても、これまでと同様にお力添えをいただければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【北海道学生サッカー連盟】

学生サッカー界の変革



北海道学生サッカー連盟 理事長 濱谷 弘志

昨年度、大学サッカー界では大きな変革がありました。冬に行われていたインカレ(全国大会)が、それまでのトーナメント方式から、本選出場のためのプレーオフ、プレーオフ勝者とシード校の計 4 校の総当たりによるグループステージ、その後、グループステージ上位チームによる決勝トーナメントという3ステージ制となりました。昨年度の北海道代表校である札幌大学は、残念ながらプレーオフ敗退のため、インカレ本線の出場は逃しました。今後もこのUEFA チャンピオンズリーグ方式が継続されるため、北海道代表校は、まずプレーオフに勝利して本選に臨むことが第 1 の目標となります。それに対して、夏に行われる全国大会である総理大臣杯は出場校が増え、北海道からは毎年 2 校が出場権を得ています。また、出場全校が 1 回戦から試合を行い、シード校が無くなりました。こちらは、運も味方すればベスト 8、4 も狙うことが可能となりました。

全国大会で北海道代表校が良い成績を上げるために、

北海道学連として代表校のレベルアップを目指すことが一つの目標です。それと同時に 3 部、2 部所属チームの底上げがもう一つの目標と考えています。そのためにここ数年は、どうすることが強化につながるのかを模索して、リーグ編成や試合数などを決定してきました。また、釧路から函館に至る広大な北海道に散らばる各大学が対戦するため、試合会場をどこにするのかも大きな課題であり、苦勞をしている点です。

最後となりますが、今年は連盟設立 50 周年という節目の年となります。設立に携わった先人や、永年連盟の運営に携わった方々に感謝をするため、イベントを計画しているところです。また、ここまで歩んでこられたのは地区協会をはじめ、多くの方のご協力があったことであることは間違いありません。改めて感謝を述べるとともに、今後も変わらぬご協力のほどよろしくお願い致します。

【北海道自治体職員サッカー連盟】

現状と課題



北海道自治体職員サッカー連盟 理事長 八木 康年

昨年度の全道自治体職員サッカー選手権大会は、6 月に旭川市で開催されました。結果は、優勝が函館市役所、準優勝が釧路市役所、3 位が札幌市役所、4 位が室蘭市役所でした。この上位 4 自治体は、7 月に静岡県藤枝市で開催された全国大会に北海道代表として出場しました。全道自治体職員フットサル大会については、11 月に名寄市で北ブロック大会が、3 月に岩見沢市で南ブロック大会が開催され、名寄市役所が両大会で優勝しました。

今年度の全道自治体職員サッカー選手権大会は、6 月 14 日から 3 日間、釧路市で開催されます。全国大会は、7 月 26 日から 5 日間、沖縄県那覇市で全国から 32 チームが集まり開催される予定です。フットサル大会については、北ブロックが 11 月 1 日から 2 日間中標津町で、南ブロックが 2026 年 1 月 24 日から 2 日間札幌市で開催される予定です。

当連盟では、コロナ禍以降の加盟登録チーム数の減少と、昨今の気温上昇による全国大会の開催地選定が課題となっています。登録チーム数を増やすためには、より参加しやすい事業への見直しが急務であります。また全国連盟からは、本州に比べて冷涼な北海道での全国大会開催が要望されていますが、大会期間が長く、審判員や運営スタッフの確保が難しくなっている現状では、大会規模の見直しを行わなければ 1 地区での大会受け入れは難しいと考えております。

私たちはこれからも、サッカーとフットサルが持つそれぞれの魅力を最大限に引き出し、より多くの社会人がこれらのスポーツに触れ、楽しむことができる事業運営を目指してまいります。

今後も皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

【北海道自衛隊サッカー連盟】

全国大会に思うこと



北海道自衛隊サッカー連盟 理事長 小澤 義則

2024年度全道自衛隊サッカー大会は8月10日(土)～11日(日)千歳市青葉公園サッカー場にて開催されました。参加チームは昨年と同じく4チームの参加トーナメント戦で行われ千歳基地チームが27回目の優勝を飾りました。今年については全国出場2チーム派遣となり千歳基地と東千歳チームが参加しました。両チームとも健闘しましたが予選敗退となり残念な結果となりました。大会は優勝回数17回と自衛隊最強のチーム厚木マーカス(海上自衛隊)が今大会も優勝しました。自衛隊サッカーの頂点にいるチームと戦えたことが我チームは勿論、北海道の自衛隊サッカーチームにとってもいい経験になったと思います。(千歳基

地監督談)大会を振り返り思うことは北海道チームに足りない部分は冬季間のグラウンドの確保及び試合数の制限等があり年間通しての試合ができてない状況です。所属する地区のリーグも試合数も少なく、登録チーム数の減少にも問題があると思います。やはり数多くの試合をやることで得るものがたくさんあり、今後の課題でもあります。北海道に所属するチームの交流戦等の開催を実施して各チームレベルアップは勿論のこと北海道チーム全体の底上げにつなげられるようより高い目標達成を目指し、全国大会で上位の成績を残せることを期待します。

【北海道クラブユースサッカー連盟】

北海道クラブユースサッカー連盟の現状と今後の展望



北海道クラブユースサッカー連盟 理事長 大年 貴之

北海道クラブユースサッカー連盟は、日本サッカー協会、日本クラブユース連盟に帰属するU-18・U-15カテゴリーのクラブを取りまとめている連盟です。

クラブユース連盟が発足し、31年が経ちました。チーム数もU18・U15・女子含め61チームが全道各地で地域の選手達に指導を行っております。

現状として、クラブユース連盟は各年代のフェスティバルやクラブ選手権大会を毎年開催しており、一定の競技レベルと運営体制が確立されています。道内のクラブから道外のJリーグの下部組織や高校サッカー強豪校へと進む選手も増加しており、育成面での成果も出始めていると思います。

また、昨年度からU15クラブ選手権大会全国大会を北

海道サッカー協会と北海道クラブユースサッカー連盟が主管となり開催しております。U15年代のトップレベルの選手・チームを間近で体感できる機会ですので、他の種別の選手・指導者の方々にも観戦して頂き北海道のレベルアップに繋がればと思います。

今後の展望として、通年を通した安定的な活動が望まれる中、冬季のトレーニング環境を改善するためのインドア施設整備やJクラブとの連携強化と通じたパスウェイの明確化も重要になってきます。

北海道クラブユースサッカー連盟は、地域の特性と課題を的確に捉えつつ、持続可能な育成体制の構築を通じて、北海道全体のサッカーレベル向上に貢献する存在として取り組んで行きたいと思っています。

【北海道フットサル連盟】

フットサル連盟の現状と展望



一般社団法人北海道フットサル連盟 専務理事 荒川 浩幸

下記の一覧表の事業が、(一社)北海道フットサル連盟(以下、「HFF」という)の取り組む年間の事業です。大別すると、(公財)北海道サッカー協会との共同開催事業と連盟単独での主催事業となります。HFF 主催事業では、育成年代でのリーグ及びフェスティバル、地区選抜大会、羊ヶ丘病院様による冠大会、各年代での選抜チーム編成・活動・道外遠征、大会出場が挙げられます。

第3回目を迎える北海道エスクエラプログラムの財源は、(独立行政法人)日本スポーツ振興センターが実施している地域スポーツ環境整備事業のうちスポーツ団体スポーツ活動助成制度であり、その助成金を基に事業を推進しています。この事業は、札幌地区のほか、釧路・十勝・室蘭の各地区での実施も継続されています。申請から助成金

確定までには多くの事務作業が必要で、新たに事務局体制を構築し取り組んでおります。

また、限られた財源の中で活動費を捻出し各年代(一般男女、大学、U-18)の選抜チームを編成し、トレーニングの実施、そして北海道選抜として全国選抜大会に参加しています。

以上のように様々な事業を推進する上で必要なリソースが慢性的に不足していることが大きな課題であり、これを解決していく事が今後のフットサル競技の展望へのカギとなることは明かです。ついては、全道の仲間たちと知恵を絞ってこの課題を解決していきたいと強く思っているところです。

2025年度 北海道フットサル連盟事業計画(案)

連盟主催事業	HKFAとの共同開催事業
第12回合衆杯U-18フットサルリーグ	JFA第31回全日本フットサル選手権大会 北海道予選(ベスト8)
第3回北海道フットサル エスクエラ プログラム(リーグ、フェスティバル・クリニック)	JFA第31回全日本フットサル選手権大会 北海道代表決定戦
第16回全道地区選抜フットサル大会	第25回北海道女子フットサル大会兼JFA第22回全日本女子フットサル選手権大会北海道代表決定戦
第2回全道地区U-15選抜フットサル大会	第20回全道大学フットサル大会兼第21回全日本大学フットサル大会北海道代表決定戦
第11回羊ヶ丘病院杯フットサル大会2024(エンジョイレディス・ガールズ・Q-40の部)	第37回全道U-17フットサル選手権大会兼JFA第12回全日本U-17フットサル大会北海道予選
第10回羊ヶ丘病院杯フットサル大会2025(U-12の部)	2025年度 第37回全道U-15フットサル選手権大会 ブロック予選(5ブロック)
北海道フットサル選抜事業	第37回全道U-15フットサル選手権大会兼JFA第31回全日本U-15フットサル大会北海道代表決定戦
第41回全国選抜フットサル大会	第17回全道U-15女子フットサル選手権大会兼JFA第16回全日本U-15女子フットサル大会北海道代表決定戦
日本トリムPresents 第17回全国女子選抜フットサル大会(トリムカップ2025)	第35回全道U-12フットサル選手権大会北海道代表決定戦 ブロック大会(5ブロック)
和歌山オープン 第2回 全国U-18選抜フットサル大会	JFAバーモントカップ第35回全日本U-12フットサル選手権大会北海道代表決定戦
FUTSAL KOBE FESTA 2026 U-18 女子フットサル選抜トーナメント	全道フットサル選手権大会2026 一般の部
2026 第8回大平フットサル地域選抜交流大会	全道フットサル選手権大会2026 女子の部
HKFAとの共同開催事業	全道フットサル選手権大会2026 U-14の部
第26回北海道フットサルリーグ2025	全道フットサル選手権大会2026 U-12の部
第14回北海道フットサルリーグカップ	全道フットサル選手権大会2025 U-12女子の部
2025年度第15回北海道女子フットサルリーグ1部、2部	第14回全道シニアフットサルオープン大会
LUXPERIOR CUP 第21回 北海道地域大学フットサルリーグ2025-2026	第2回U-8・U-10フットサルリーグチャンピオンズカップ2026
北海道フットサルリーグ第9回ブロックリーグ(札幌道央、道北、道南、道東)	第21回全道自治体職員フットサル大会 北ブロック
北海道フットサルリーグ2024 第9回ブロックリーグ決勝大会	第21回全道自治体職員フットサル大会 南ブロック
北海道フットサルリーグ入替戦	

【北海道チャレンジドサッカー連盟】

連盟の現状と今後



北海道チャレンジドサッカー連盟 会長 佐橋 正智

北海道ハンディキャップサッカー連盟として設立したのが 2002 年 2 月、知的障がい・発達障がいの方たちに、サッカーを通して希望をもち、楽しさを享受し、障がいの改善等に寄与することを目指して活動を継続しています。ボール一つで活動できるサッカーの魅力を味わい、コミュニケーションを図りながら社会参加することを活動の理念とし、それぞれの障がいの状況に応じて、サッカーをしたいという気持ちに応じた環境の整備に努めています。

＜2024 年度の活動＞

主要 4 大会（11 人制・高等養護学校・8 人制・フットサル）を中心に、普及を目的に小中学生を対象としたジュニア交流会や高校生以上を対象としたフェスティバルを開催しました。特にジュニア交流会では、サッカーに取り組んだことのない子どもも参加し、急造のチームを組み、連盟推薦として大会に参加しました。ほかにも、女子サッカー教室と高等支援学校のフットサル交流大会を新設し、普及と拡大に努めています。また、旭川地区では夏と冬にサッカー教室を開催し、札幌地区サッカー協会主催の交流大会にも参加しました。主要な大会の多くでは、勝利を目指すフリークラスと楽しむことを目的としたフレンドリークラスに分かれて競技を実施しています。近年、フレンドリークラスで優勝を目指す傾向が強くなり、改善策として抽選で分かれたプロ

ック毎のリーグ戦のみを実施することとし、勝利を主たる目的とせず改めてサッカーをより楽しむための大会参加という原点に立ち返る工夫をしました。

＜インクルーシブサッカーの取組＞

昨年 11 月には、当連盟が主管となり北海道インクルーシブフットボールフェスタを実施しました。障がいの種別や有無にかかわらずサッカーを通じて誰もがスポーツの楽しさを享受することが主なねらいです。道内で活動している各障がい種のサッカー団体が集まり、昨年に引き続きウォーキングフットボールを全員で楽しんだあと、北海道ろう者サッカー協会の協力を得て、ろう者サッカーの実際を全員で体験するなどしました。ちなみに昨年は CP サッカーの体験をしています。今年度も 2 月につど一むで実施予定です。

＜今後の課題・展望＞

ここ数年の課題は、チャレンジドサッカーに取り組むサッカー人口の減少です。それに、予算面も大変厳しくなっています。遠方からの参加者や全国大会等への派遣補助など、できない状況が続いています。普及と拡大の取組の成果を定着させるためにも、運営面の厳しさを乗り越え、日常の大会や教室等を充実させて、気持ちが向いたときにいつでもサッカーができる環境を整えていきたいと思っています。

【北海道ビーチサッカー連盟】

ビーチサッカーの活動と展望



北海道ビーチサッカー連盟 理事長 荒川 浩幸

先般、2025 年度第 1 回理事会において任期満了に伴う役員改選において、前理事長の溝口昇氏より理事長職を引き継ぎました、荒川と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

北海道のビーチスポーツ全般に言えることですが、気候温暖化とはいえ北海道の夏はあまりにも短く競技を広めていくにも頻繁に大会を実施できるほど環境が整っているとは言いがたいのが現状です。

ですが、我々連盟役員、参加チームもこの競技の魅力を知りお互いに協力し合い継続して事業を行っております。

昨年度は、7 月 14 日室蘭市イタンキ浜での第 19 回全道ビーチサッカー大会を皮切りに(優勝は旭川実業高等学校)北海道ビーチサッカーリーグを8月18日と9月8日の2節を石狩あそびーちで行い(優勝はFC. VLEA)リーグ戦の前

日には、現役日本代表の奥山選手に来ていただきアンダーカテゴリーのクリニック、フェスティバルを開催、両日には14 チームの皆さんに参加いただき、ビーチサッカーの魅力を伝授してもらいました。手前みそになりますが、初めてリーグに出場したチームもクリニックに参加してもらった子供たちにもビーチサッカーの楽しさをわかってもらったと自負しています。

しかしながら、北海道の短い夏にこの競技を普及していくためには、絶対必要なものがあります、それは常設ピッチです。この課題は正直解決の糸口さえ掴んでいない状況が続いていますが、あきらめることなく夢と希望を持ってこの課題にチャレンジし続けます。

今年も短く熱い夏がやってくるぞ！

各種大会の開催要項は WEB で！

北海道サッカー協会は、協会の描く姿を
サッカーファミリーの皆様と共有するため、
HKFA中期ビジョンを制定いたしました

24334, 24336

(公制) 非圆管材一次一板条

2

1. 選手の強化
→全国ベスト4以上を目指す
2. 財団体制の強化
→自主財団の獲得
3. 登録者数の維持
→普及活動と戦術的投資
4. HKFA組織の強化
→地区協会、各種連盟、各種委員会との連携強化など

3

- ・スキルを高める指導力
- ・高いゲームコントロール力



4

- ・選手の特徴を見出し育成する
- ・テクニックに裏打ちされたスキルを獲得させる
- ・サッカーとフットサルの協働を図る
- ・アイディアと戦術を融合させる

5

- ・高いレベルでフットボールを理解する
- ・選手の意図を感じ、生かす
- ・戦術やインテンシティを発揮させる
- ・ゲームの流れを作り出す

6

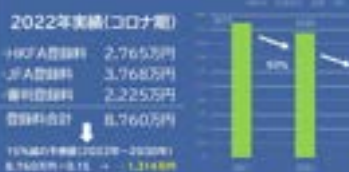


7

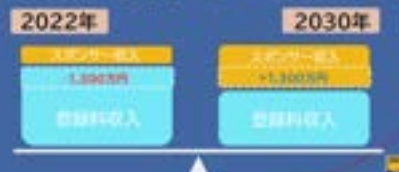
新たな自主財源獲得の努力をする

中期的净收支均衡状况在图 6

8



9



10

グラスルーツ(草の根)活動への継続投資を図る



1

サッカーを楽しむFun Football を中心とする
イベントやフェスティバルなど数多く開催する

12

- 女子**
- ・女子サッカーの更なる普及を図る
→女子サッカーの気運を高め、発展に努める
 - ・高校、大学、社会人への受け皿を創出す
→女子サッカーの活動環境を整備する

13

- ・全国大会、プレー機会の確保
→ エンジョイサッカーの普及
- ・5歳刻みの大会の可能性を拓く。
- ・登録制度の見直し(スムーズな轉籍)

14

巨大な業績量

會計・監事
監事の任期

人材不足

15

1. 地区協会・各種連盟・各種委員会との連携強化
→ユニバーシティを内閣とし、協力関係をもっと強める。
2. 人材育成と若手人材の確保
→大学・専門学校との連携を強化する。
3. 多様な人材との協働
→年齢・性別・人種・障がいの有無を超えた協働により、それぞれの強みを活かして新たな価値を生み出す。
4. 事務局業務の効率化
→ITツールの導入の活用により業務効率化を図り、重点に力をつける体制を作る。

16



(公財)北海道サッカー協会HPでも公開してます

データベース



2024年度



2024年度各事業大会結果報告

国スポ

第78回国民スポーツ大会サッカー競技

年	回	開催地	北海道代表	最終結果	スコア	優勝チーム
2024	78	滋賀	少年男子:2回戦敗退 少年女子:1回戦敗退 成年女子:1回戦敗退	少年男子:1回戦vs山口2-0、2回戦vs埼玉1-1(PK4-5) 少年女子:1回戦vs佐賀1-1(PK1-4) 成年女子:1回戦vs広島0-3	少年男子:広島 少年女子:静岡 成年女子:広島	

第1種

全道高等専門学校(U-19)サッカー新人大会

年	回	開催地	チーム数	優勝	準優勝	第3位
2024	15	苫小牧	3	旭川工業高等専門学校	苫小牧工業高等専門学校	釧路工業高等専門学校

全国高等専門学校サッカー選手権大会

北海道予選					全国大会	
年	回	開催地	結果		回/日程/会場 優勝チーム	北海道代表チーム 最終結果
2024	57	旭川	1位 2位 3位	苫小牧工業高等専門学校 旭川工業高等専門学校 釧路工業高等専門学校	57 2024年9月 函館 呉工業高等専門学校	苫小牧工業高等専門学校 準優勝

北海道専門学校サッカー選手権大会

北海道予選					全国専門学校サッカー選手権大会 全国大会	
年	回	開催地	結果		回/日程/会場 優勝チーム	北海道代表チーム 最終結果
2024	34	札幌	優勝	北海道スポーツ専門学校	34 2024年10月 静岡 履正社スポーツ専門学校北大阪校	北海道スポーツ専門学校 第3位

北海道専門学校サッカーリーグ

年	開催地	結果
2024	札幌	1位 北海道ハイテクノロジー専門学校 2位 北海道スポーツ専門学校

北海道学生サッカーリーグ

北海道予選						全国大会	
年	回	チーム数	第1位	第2位	第3位	回/日程/会場 優勝チーム	北海道代表チーム 最終結果
2024	43	6	(1部)札幌大学	教育大学岩見沢校	北翔大学	73 2024年12月 関東圏他 東洋大学	札幌大学 予選ラウンド敗退
		8	(2部)札幌大谷大学	星槎道都大学	札幌医科大学		
		10	(3部)小樽商科大学	教育大学札幌校	日本医療大学		

インディペンデンスリーグ北海道大会

年	回	チーム数	優勝	準優勝	3位
2024	16	6	札幌大学	教育大学岩見沢校	北海道大学

総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント

北海道予選						全国大会	
年	回	開催地	チーム数	優勝	準優勝	回/日程/会場 優勝チーム	北海道代表チーム 最終結果
2024	46	札幌	24	教育大学岩見沢校	札幌大学	48 2024年9月 岩手他 阪南大学	札幌大学、教育大学岩見沢校 1回戦敗退

デンソーカップチャレンジサッカー

全国大会				
年	回	会場	北海道代表チーム	優勝チーム
2024	39	静岡	北海道選抜	本大会7位 関東選抜A

知事杯全道サッカー選手権大会

北海道予選				
年	回	開催地		
2024		中止		

HKFA北海道サッカー選手権大会

北海道代表決定戦					天皇杯全日本サッカー選手権大会 全国大会	
年	回	開催地	チーム数	結果	回/優勝チーム	北海道代表チーム 最終結果
2024	6	十勝	4 優勝 準優勝 3位	北海道十勝スカイアース 教育大学岩見沢校 BTOP北海道 札幌大学	104回 ヴィッセル神戸	1回戦敗退

全国社会人サッカー選手権大会

北海道予選						全国大会	
年	回	開催地		結果		回/日程/開催地 優勝チーム	北海道代表チーム 最終結果
2024	60	オホーツク	Aブロック 優勝	BTOP北海道	Bブロック 優勝	北海道十勝スカイアース	60 2024年10月 滋賀 JAPANサッカーカレッジ 北海道十勝スカイアース BTOP北海道 2回戦敗退

全国クラブチームサッカー選手権大会

北海道予選							全国大会	
年	回	開催地		結果			回/日程/開催地 優勝チーム	北海道代表チーム 最終結果
2024	31	小樽	Aブロック 優勝	トヨタ自動車北海道サッカー部	Bブロック 優勝	VAIN FC 伊達	31 2024年9月福島 古河シティ	トヨタ自動車北海道サッカー部、 VAIN FC 伊達 1回戦敗退

全道自治体職員サッカー選手権大会						全国大会	
北海道予選						北海道代表チーム	
年	回	開催地	優勝	準優勝		回/日程/開催地	
2024	54	旭川	函館市役所	釧路市役所		50 2024年7月 静岡 藤枝市役所	函館市役所、札幌市市役所 2回戦敗退

北海道サッカーリーグ						3位
年	回	チーム数	優勝	準優勝		
2024	47	8	北海道十勝スカイアース	BTOP北海道		札幌GP

北海道サッカーリーグブロックリーグ決勝大会						3位
年	回	開催地	チーム数	優勝	準優勝	
2024	22	札幌	4	日本製鉄室蘭サッカー部	sabas	FC網走

北海道サッカーリーグ ブロックリーグ						3位
年	ブロック	チーム数	優勝	準優勝		
2024	札幌	6	sabas	札幌北大クラブ		札幌蹴球団
	道央・道北	4	KAMUI FC HIGASHIKAWA	大雪クラシック		スベリオーレ
	道南	6	日本製鉄室蘭サッカー部	トヨタ自動車北海道サッカー部		函館市役所サッカー部
	道東	6	FC網走	新得フットボールクラブ		クラブス

日本スポーツマスターズ2024サッカー選手権大会					
年	開催地				
2024	札幌	1位	札幌Shoebill FC	2位	アンフィニVANKEIFC

全国地域サッカーチャンピオンズリーグ					
全国大会					
年	会場	北海道代表チーム	最終結果	予選リーグ結果	優勝チーム
2024	たけびしスタジアム京都	北海道十勝スカイアース	1次R敗退	グループC3位(1勝1引1敗)	飛鳥フットボールクラブ

全道自衛隊サッカー大会						全国自衛隊サッカー大会		
北海道予選						全国大会		
年	回	開催地	チーム数	結果		回/日程/開催地	北海道代表チーム	
2024	58	千歳	4	優勝		58 2024年4月東京	千歳基地サッカー部	
				準優勝	東千歳サッカー部		予選リーグ敗退	
				3位	滝川駐屯地サッカー部			
						海上自衛隊厚木基地 マーカス		

全国高校サッカー選手権大会						第2種(U-18)	
北海道予選						全国大会	
年	回	開催地	チーム数	結果		日程/会場 優勝チーム	北海道代表チーム 最終結果
2024	103	札幌	29	優勝	札幌大谷高等学校	24年12月-25年1月 国立競技場他 前橋育英	札幌大谷高等学校
				準優勝	旭川実業高等学校		2回戦敗退
				3位	北海高等学校		
					札幌創成高等学校		

全国高等学校総合体育大会サッカー競技						全国大会	
北海道予選						北海道代表チーム	
年	回	開催地	チーム数	結果		日程/開催地 優勝チーム	最終結果
2024	77	札幌	24	優勝	旭川実業高等学校	2024年7-8月 Jヴィレッジ他 昌平	旭川実業高等高校 1回戦敗退
				準優勝	札幌大谷高等学校		札幌大谷高等学校 2回戦敗退
				3位	北海道大谷室蘭高等学校、札幌創成高等学校		

日本クラブユースサッカー選手権 (U-18) 大会							
全国大会							
年	回	開催日程	開催地	北海道代表チーム	最終結果	予選リーグ結果	優勝チーム
2024	48	7月	味の素他	北海道コンサドーレ札幌U-18	予選リーグ敗退	グループG2位(1勝2敗0分)	ガンバ大阪ユース

高円宮杯JFA U-18サッカーリーグ プレミアリーグ プレーオフ					
全国大会					
年	開催地	結果			
2024	広島広域公園他	北海道コンサドーレU-18			Aブロック1回戦敗退

高円宮杯JFA U-18サッカーリーグ プリンスリーグ北海道					
年	開催地	チーム数	優勝	準優勝	3位
2024	札幌・旭川他	8	北海道コンサドーレU-18	札幌大谷高等学校	札幌創成高等学校

高円宮杯JFA U-18サッカーリーグ 北海道ブロックリーグ						3位
年	ブロック	チーム数	優勝	準優勝		
2024	札幌	8	[1部]札幌大谷(2nd)	とわの森三愛(top)		東海大札幌(top)
		8	[2部]札幌大谷(3rd)	クラーク記念国際(top)		北海(3rd)
		16	[3部A]札幌光山の手(top)	北星学園大付属(2nd)		札幌大谷(4th)
			[3部B]とわの森三愛(2nd)	札幌西		札幌工業
	道央	24	[4部A]札幌光星(4th)	札幌創成(5th)		北星学園大付属(3rd)
			[4部B]札幌創成(4th)	札幌東(2nd)		とわの森三愛(4th)
			[4部C]札幌龍谷(2nd)	石狩翔陽		札幌旭丘
		8	[1部]文教大付属	恵庭南		日大
	道南	13	[2部]岩見沢東	文教大付属(2nd)		小樽桜陽
		8	[1部]大谷室蘭(2nd)	北海道栄		駒大苫小牧(2nd)
	道東	14	[2部西]市立函館	函館商業		函館西
			[2部東]大谷室蘭(3rd)	函館ラサール水産知内		室蘭FC
	道北	8	[1部]帯広大谷	釧路北陽		帯広北(2nd)
		9	[2部]帯広北(3rd)	武修館		帯広大谷(3rd)
		8	[1部]旭川実業(3rd)	旭川東		旭川龍谷(top)
		8	[2部]旭川実業(4th)	稚内大谷		旭川龍谷(2nd)
		5	[3部]旭川明成(2nd)	旭川工業		枝幸名寄士別翔雲

高円宮杯JFAU-18サッカープリンスリーグ北海道 プレーオフ					
年	開催地	チーム数	優勝	優勝	準優勝
2024	苫小牧	8	Aブロック Bブロック	札幌大谷2nd 道大谷室蘭2nd	帯広大谷 とわの森三愛

第3種(U-15)

高円宮杯全日本U-15サッカー選手権大会

全国大会

年	開催日程 開催地	北海道代表チーム	最終結果	優勝チーム
2024	12/14-12/27 J-GREEN 堺他	北海道コンサドーレ札幌U-15 アンフィニ札幌	1回戦敗退 1回戦敗退	浦和レッズジュニアユース

北海道中学校体育大会北海道中学校サッカー大会

全国中学校体育大会全国中学校サッカー大会

北海道予選

全国大会

年	回	開催地	チーム数	結果	回/日程/会場	参加チーム/最終結果予選リーグ等結果
2024	63	函館市	18	優勝 札幌大谷中学校 準優勝 札幌市立手稲中学校	2024年8月 金沢コーポラーレスタジアム他	札幌大谷中学校 1回戦敗退 札幌手稲中学校 2回戦敗退

日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会

全国大会

年	回	開催日程	開催地	北海道代表チーム	最終結果	予選リーグ結果	優勝チーム
2024	39	8/10-8/20	SSAP他	北海道コンサドーレ札幌U-15 アンフィニ札幌	予選敗退 予選敗退	グループA4位(1分2敗) グループE3位(3敗)	川崎フロンターレU-15生田

北海道カブスリーグU-15

年	回	開催地	チーム数	優勝	準優勝	3位
2024	19	札幌・室蘭他	10	[1部] 北海道コンサドーレ札幌U-15 [2部] クラブフィールズU-15	アンフィニ札幌 アンフィニ札幌(2nd)	札幌ジュニアFC 北海道コンサドーレ札幌U-15(2nd)

高円宮杯JFAU-15サッカーリーグ ブロックカブスリーグ

年	ブロック	チーム数	優勝	準優勝	3位
2024	札幌	8 1部	HKD FC U-15	SSSジュニアユース(2nd)	札幌ジュニアFC(2nd)
		8 2部A	AGRGRE	NORTE札幌FC	SSS札幌サクセス(2nd)
		8 2部B	FCフォルテU15	クラブフィールズU-15(3rd)	FIBRA FC U-15
	道央	7 1部	泊SC	DOHTO(2nd)	バーモス恵庭
		6 2部	長沼栗山南幌合同	千歳勇舞中	北空知合同
	道南	8	AVENDA FC	北湘南	arearea
	道東	8	帯北FC U-15	FC網走U-15	下音更・共栄中学校
	道北	8	B.N.F.C	TRAUM VITA(2nd)	コンサドーレ旭川(2nd)

北海道カブスリーグU-13

年	回	開催地	チーム数	優勝	準優勝	3位
2024	17	札幌・室蘭他	1部	10 北海道コンサドーレ札幌U-15	札幌ジュニアFC	アンフィニ札幌
		札幌・室蘭他	2部	7 FC DENOVA 札幌	クラブフィールズU-15	TRAUM VITA
		札幌・旭川他	3部	16 Arearea FC	FCフォルテU5	AVENDA FC

北海道ブロックカブスリーグU-13

年	回	ブロック	チーム数	優勝	準優勝	3位
2024	8	道南	5	AVENDA FC	プレイフル函館FC	北湘南
	12	道東	8	帯北FC U-15	帯広市立南町中学校	FC網走U-15

第4種(U-12)

全日本少年サッカー大会

北海道予選

全国大会

年	回	開催地	チーム数	結果	日程/会場 優勝チーム	北海道代表チーム 最終結果/予選リーグ結果
2024	48	室蘭市	16	優勝 北海道コンサドーレ札幌U-12 準優勝 くりやまフットボールクラブ 3位 北海道コンサドーレ室蘭U-12 SSS札幌サッカースクール	2024年12月 鹿児島ふれあい他 東京ヴェルディジュニア	北海道コンサドーレ札幌U-12 1次ラウンド敗退 1次グループB2位(2勝1敗)

全日本少年サッカー大会ブロック予選

年	ブロック	チーム数	優勝	準優勝	3位	3位
2024	札幌	16	A 北海道コンサドーレ札幌U-12	スボルディングFC	SC SAPPORO U-12	ベアフット北海道U-12
			B FC Kitago PIVOアズベルテ	西園・福井野サッカースポーツ少年団	アスルクラロ札幌U-12	石狩FC レッド
			C LIV FOOTBALL CLUB U-12	KE・クラブフィールズU-12	One Eight FC U-12	FCコラージュ平岡公園
			D SSS札幌サッカースクール	札幌ジュニアFC	北海道コンサドーレ札幌U-12BLACK	真栄FC U-12
	道央	12	A ヴィエント・F・マリノ小樽FC	バーモス恵庭FC U-12A	FC志文・栗沢	
			B 三笠FC	稲穂サッカー少年団	EZZORE FC	
			C くりやまFC	DOHTO Jr U12A	SHIRAKABA FOOTBALL CLUB	
	道南	8	苫小牧ELSOLE FC U12	AVENDA FC U12	プレイフル函館ジュニア	様似サッカー少年団
	道東	12	A 幕別内SC RED	北海道コンサドーレ釧路	しんとくサッカースポーツ少年団	
			B 帯広フットボールクラブ	音更ユニオンSC	遠軽はやぶさ	羅臼標津FC
			C ブログレッツ十勝FC	根室北斗FC	SC 釧路U-12	
	道北	12	A 北海道コンサドーレ東川U-12	稚内ジョゴリオSC	旭川神居東ファイターズ	永山南サッカー少年団
			B B.N.F.C	旭川Grin・Bear・Boys FC	ふらのFC	下川サッカー少年団
			C 名寄ビヤシサッカー少年団	旭川ウィングスFC	CRECER稚内	VITA FC U12

フジパンググループPresentsロバパンCUP全道(U-12)サッカー少年団大会

年	回	開催地	チーム数	優勝	準優勝	第3位	第3位
2024	56	苫小牧市	32	SSS札幌サッカースクール	FC Kitago PIVO	北海道コンサドーレ札幌U-12	北海道コンサドーレ室蘭U-12

トラク協会杯全道少年団(U-11)サッカー大会

年	回	開催地	チーム数	優勝	準優勝	第3位
2024	36	札幌市	24	FC Kitago 北海道コンサドーレ札幌U-12	KE・フィールズU-12	札幌ジュニアFC

全道少年(U-12)8人制サッカー大会

JA全農杯リビピック小学生8人制サッカー大会

北海道予選

全国大会

年	回	開催地	チーム数	結果	日程/会場 優勝チーム	北海道代表チーム 最終結果/予選リーグ結果
2024	21	苫小牧市	16	優勝 北海道コンサドーレ札幌U-12 RED 準優勝 FC DENOVA 札幌 3位 DOHTO Jr U-12 北海道コンサドーレ室蘭U-12	2024/5/3~5 日産スタジアム他 レジスタFC	北海道コンサドーレ札幌U-12 RED 1次グループ敗退 1次R Dグループ2位(2勝1敗)

岩内町長杯全道少年U-10サッカー南北北海道大会							
年	回	開催地	チーム数	優勝	準優勝	第3位	
2024	21	岩内町	24	北海道コンサドーレ札幌U-12	ASC北海道U-12	DOHTO Jr U-12A	

全道少年U-10サッカー北北海道大会							
年	回	開催地	チーム数	優勝	準優勝	第3位	第3位
2024	21	帯広市	24	SC釧路 U-12	開西つつじが丘JrFC	VITA FC U12	滝川明苑ジュニアフットボールクラブ

JFA U-12ガールズゲーム北海道 熊谷・高瀬杯サッカー大会							
年	回	開催地	チーム数	優勝	準優勝	第3位	第3位
2024	12	旭川市	21	北光小スポーツ少年団A	とからFCなでしこ	リカシィ	札幌女子トレセンU12

女子

道新旗 北海道女子サッカーリーグ				皇后杯 JFA全日本女子サッカー選手権大会			
北海道予選				全国大会			
年	回	開催地	チーム数	結果	日程/会場	北海道代表チーム	
2024	19	札幌	7	優勝 札幌大学女子サッカー部ヴィスタ 準優勝 ノルディア北海道 3位 北海道文教大学附属高等学校女子サッカー部	46 2025年1月 全国各地 1回戦敗退	札幌大学女子サッカー部ヴィスタ 1回戦敗退	

北海道女子サッカーリーグ参入決定戦・入替戦							
年	回	開催地	参入戦	第1位	入替戦	勝利チーム	
2024		札幌		札幌大谷高等学校		北照高等学校	

全道O-30女子サッカー大会				JFA全日本O-30女子サッカー大会			
北海道予選				全国大会			
年	回	開催地	チーム数	結果	回/日程/会場	北海道代表チーム	
2024	36	小樽	3	優勝 DIVERTI 準優勝 室蘭アイスバーズ	36 2025年3月 福島 Legame	DIVERTI 第3位	

全日本大学女子サッカー選手権大会							
全国大会							
年	回	開催地	チーム数	優勝	回/日程/会場	北海道代表チーム	
2024	33	2024年10月	2	札幌大学女子サッカー部ヴィスタ	33 2025年1月 関東他	札幌大学 2回戦敗退	

北海道高等学校女子サッカー選手権大会				全日本高等学校女子サッカー選手権大会			
北海道予選				全国大会			
年	回	開催地	チーム数	結果	回/日程/会場	北海道代表チーム	
2024	33	十勝	12	優勝 北海道文教大学附属高等学校 準優勝 北照高等学校 3位 札幌大谷高等学校 北海道大谷室蘭高等学校	33 2025年1月 兵庫 2回戦敗退	北海道文教大学附属高等学校 2回戦敗退	

北海道高等学校総合体育大会女子サッカー競技				全国高等学校総合体育大会サッカー競技大会女子			
北海道予選				全国大会			
年	回	開催地	優勝	準優勝	日程/会場	北海道代表チーム	
2024	13	宗谷	北海道文教大学附属高等学校		2024年7月-8月 北海道 北海道文教大学附属高等学校 1回戦敗退 藤枝順心高等学校 北海道大谷室蘭高等学校 1回戦敗退		

北海道女子U-18サッカー選手権大会				JFA全日本U-18女子サッカー選手権大会			
北海道予選				全国大会			
年	回	開催地	チーム数	結果	回/日程/会場	北海道代表チーム	
2024	27	空知	4	優勝 クラブフィールズ・リンダ 準優勝 釧路リベラルティ	28 2025年1月 大阪 日テレ・東京ヴェルディメニーナ	クラブフィールズ・リンダ 1回戦敗退	

北海道U-15女子サッカー選手権大会				高円宮妃杯JFA全日本U-15女子サッカー選手権大会			
北海道予選				全国大会			
年	回	開催地	チーム数	結果	回/日程/会場	北海道代表チーム	
2024	32	苫小牧	8	優勝 クラブフィールズ・リンダ 準優勝 十勝FSリトルガールズ U-15 3位 岩見沢ルファヴェニールU-15	29 2024年12月 東京 セレッソ大阪ヤンマーガールズU-15	クラブフィールズ・リンダ 1回戦敗退 北海道リラ・コンサドーレ 1回戦敗退	

北海道女子8人制リーグフェスティバル 北海道レディースエイトリーグ							
年	開催地	優勝	準優勝	第3位			
2024	札幌	岩見沢FCルファヴェニールALL	ノーNAME	北海道札幌東商業高等学校			

北海道女子8人制サッカーフェスティバル(U-13)							
年	回	開催地	第1位	第2位	第3位		
2024	6	札幌	札幌ブロックトレセン pink	道北女子トレセンU-13	札幌ブロックトレセンblue		

シニア

全国健康福祉祭<ねんりんピック>サッカー交流大会(60歳以上)							
全国大会							
年	回	会場	北海道代表				
2024	36	鳥取	グループ第4位				

全道O-70サッカーオープン大会				全日本O-70サッカー大会			
北海道予選				全国大会			
年	回	開催地	チーム数	結果	回/会場	北海道代表チーム	
2024	13	札幌	8	優勝 FC70室蘭 準優勝 札幌四十雀サッカークラブ70	18 2024年6月 秋田 兵庫県シニア70選抜	FC70室蘭 第3位	

全道O-60サッカー大会				全日本O-60サッカー大会			
北海道予選				全国大会			
年	回	開催地	チーム数	結果	回/会場	北海道代表チーム	
2024	32	道北	16	優勝 札幌60CERI鳥 準優勝 室蘭シニア60サッカークラブ	24 2024年6月 秋田 T Dreams-60	羊ヶ丘オールドキッカーズ2002/OV60 予選リーグ敗退(0勝0引3敗) 札幌60CERI鳥 予選リーグ敗退(0勝1引2敗)	

全道O-50サッカー大会					全日本O-50サッカー大会	
北海道予選					全国大会	
年	回	開催地	チーム数	結果	回/会場	北海道代表チーム
2024	40	北見	16	優勝 FCKアンフィニ 準優勝 Docon Jack 50	23 2024年6月 栃木 T・ドリームス50	FCKアンフィニ 1次ラウンド敗退(0勝1分2敗)

全道O-40サッカー大会					全日本O-40サッカー大会	
北海道予選					全国大会	
年	回	開催地	チーム数	結果	回/会場	北海道代表チーム
2024	49	千歳	16	優勝 北海道オッサンドーレ札幌40 準優勝 abond football club	12 2024年11月 静岡 FC.西武台	北海道オッサンドーレ札幌40 予選リーグ敗退(1勝1引1敗)

日本スポーツマスターズ(35歳以上)						
全国大会						
年	開催地	優勝	準優勝	北海道代表チーム 最終結果/予選結果		
2024	長崎	O-35埼玉県選抜	静岡県中西部選抜	札幌Shoebill FC 1次ラウンド敗退(0勝2敗)		

北海道シニアサッカーオープン大会						
年	回	開催地	カテゴリー	チーム数	結果	
2024	24	空知	70グループ	8	第1位 FC70室蘭	第2位 札幌四十雀サッカークラブ70FC
			60グループ	17	A1位 札幌60CERI鳥	B1位 FCオールジャパン60
			50グループ	16	A1位 Docon Jack 50	B1位 GTO十勝FC
			40グループ	12	A1位 ミュートスSC	B1位 アンフィニVANKEIFC40
					第3位 函館四十雀70	C1位 旭川シニア60FC
						C1位 真栄OFC50
						C1位 グスターレ十勝FC

北海道シニア8(エイト)サッカーツアーオープン大会						
年	回	開催地	チーム数	優勝	準優勝	第3位
2024	11	十勝	40部門	5 帯広フットボールくらぶ	真栄OFC40	帯広四十雀サッカークラブ
			50部門	4 GTO十勝FC	FCオールジャパン50	アルテ球蹴倶楽部
			60部門	5 帯広シニア60SC	FCオールジャパン60	オッサンドーレ札幌60

全道シニア8人制サッカーオープン大会						
年	回	開催地	カテゴリー	チーム数	結果	
2024	20	札幌	70グループ	第1位 羊ヶ丘キッカーズ70	第2位 札幌サッカークラブ七十雀	
			60グループ	A1位 羊ヶ丘オールドキッカーズ2002/OV60	B1位 ZIZI札幌FC60	
			50グループ	A1位 札幌サッカークラブ七十雀	B1位 GTO十勝FC	C1位 Avance
			40グループ	A1位 札幌REVESHUA SFC	B1位 真栄OFC 40	C1位 CERI
						D1位 Docon Jack 50W

全日本フットサル選手権大会 北海道地域大会					全日本フットサル選手権大会	
北海道予選					全国大会	
年	回	開催地	結果		回/日程/会場	北海道代表チーム
2024	30	釧路他	優勝 エスポラーダ北海道 準優勝 LEVO北海道 3位 菅原工務店クレセル Sorpresa十勝		30 2025年3月 駒沢オリンピック公園他 しながわシティ	エスポラーダ北海道 1回戦敗退

北海道女子フットサル選手権大会					全日本女子フットサル選手権大会	
北海道予選					全国大会	
年	回	開催地	チーム数	結果	回/日程/会場	北海道代表チーム
2024	23	札幌	7	優勝 S.L. DasPeed 準優勝 クラブフィールズ・リンダ 3位 エスポラーダ北海道イルネーヴェ	21 2025年2月～3月 よつ葉アリーナ ハル'ラール浦安ス・ホニータス	S.L. DasPeed 1回戦敗退

全道大学フットサル大会兼全日本大学フットサル大会北海道代表決定戦					全日本大学フットサル大会	
北海道予選					全国大会	
年	回	開催地	チーム数	結果	回/日程/会場	北海道代表チーム
2024	19	札幌	5	優勝 北海道大学Esperanza 準優勝 Hermosa Cadera 3位 北海道科学大学	20 2024年8月 岸和田市総合 大阪成蹊大学フットサル部	北海道大学Esperanza 1回戦敗退

全道U-17フットサル選手権大会兼全日本U-18選手権北海道予選					全日本U-18フットサル選手権大会	
北海道予選					全国大会	
年	回	開催地	チーム数	結果	回/日程/会場	北海道代表チーム
2024	36	札幌	24	優勝 北星大附A 準優勝 釧路北陽 3位 旭川実業 函館西	12 2025年8月	

全道U-15フットサル選手権大会兼全日本U-15選手権北海道予選					全日本U-15フットサル選手権大会	
北海道予選					全国大会	
年	回	開催地	チーム数	結果	回/日程/会場	北海道代表チーム
2024	36	札幌	16	優勝 HKD FOOTBALL CLUB U-15 準優勝 Arearea FC U-15 3位 SSSジュニアユース	30 2025年1月 日環アリーナ栃木 長岡JYFC	HKD FOOTBALL CLUB U-15 1次R敗退(1勝1敗1分) Arearea FC U-15 1次R敗退(1分2敗)

全道U-15女子フットサル選手権大会兼全日本U-15女子選手権北海道予選					全日本女子U-15フットサル選手権大会	
北海道予選					全国大会	
年	回	開催地	チーム数	結果	回/日程/会場	北海道代表チーム
2024	16	苫小牧	13	優勝 クラブフィールズ・リンダ 準優勝 十勝FSリトルガールズ 3位 岩見沢FCルファヴェニールU-15 FC網走menina・根室ラベナ合同	15 2024年1月 日環アリーナ栃木 京都精華学園中学校	クラブフィールズ・リンダ 準優勝

パーモントカップ全日本U-12フットサル選手権大会北海道予選						パーモントカップ全日本U-12フットサル選手権大会					
北海道予選						全国大会					
年	回	開催地	チーム数	結果		回/日程/会場	北海道代表チーム				
2024	34	札幌	16	優勝	苫小牧ELSOLE-FC U-12A	34 2024年8月	苫小牧ELSOLE-FC U-12A				
				準優勝	プレイフル函館ジュニア	武蔵の森	準決勝敗退 グループG1位(2勝1敗)				
				3位	北海道コンサドーレ室蘭U-12	戸塚FCジュニア	プレイフル函館ジュニア				
							1次R敗退	グループC3位(1勝2敗)			

全道フットサル選手権大会 一般					
年	開催地	チーム数	優勝	準優勝	第3位
2024	札幌	24	LEVO	GanasalA.F.C	Rivalis

全道フットサル選手権大会 女子					
年	開催地	チーム数	優勝	準優勝	第3位
2024	札幌	11	クラブフィールズ・リンダ	クラブフィールズ・リンダ2nd	室蘭アイスバース

全道シニアフットサル選手権大会							
年	回	開催地	チーム数	優勝	準優勝	第3位	第3位
2024	13	滝川	11	10	北海道オッサン*ー札幌サテライト	旭川FCオーバー40	北海道オッサン*ー札幌
		滝川	50	13	アンフィニVANKEI FC.50	真栄OFC 50	アンフィニVAMMKEIFC40
		滝川	60	10	札幌60CERI烏	FCオールジャパン60	旭川シニア50FC
						北海道オッサン*ーレ60	

全道フットサル選手権大会 U-14					
年	開催地	チーム数	優勝	準優勝	第3位
2024	小樽	24	SSSジュニアユース	Arearea FC U-15	EINS FSV Loewe

全道フットサル選手権大会 U-12					
年	開催地	チーム数	優勝	準優勝	第3位
2024	十勝	24	苫小牧ELSOLE-FC U-12A	SSS札幌サッカースクール	西園・福井野サッカースポーツ少年団

全道フットサル選手権大会 U-12女子						
年	回	開催地	チーム数	優勝	準優勝	第3位
2024	35	芦別	15	空知FCガールズ	根室女子選抜	千歳地区トレセンU-12女子 旭川女子トレセン

パーモントカップ全日本少年フットサル大会北海道予選ブロック大会							
年	ブロック	チーム数	優勝	準優勝	第3位		
2024	札幌	30	A 西園・福井野	LIV FC U-12	FC DENOVA 札幌	HKD TOP	
			B One Eight FC	ア*リ*レ札幌	札幌大谷地	AGGRE U-12	
			C 石狩フットボールクラブ	太平FC	FC Kitago PIVO アス*ヘルデ	札幌藻南FC	
			D SSS札幌サッカースクール	Fibra Football Club	篠路FC	アス*クロ札幌U-12	
	道央	16	グ*エント*F*マリノ小樽FC	EZZORE FC	稲穂		
	道南	9	A 函館ジュニオール	ASC	ジュニオーレFC		
			B プレイフル函館	北海道コンサドーレ室蘭	北斗SC		
			C サン・スポーツクラブ	YELL FOOTBALL CLUB	幌別西サッカースポーツ少年団		
	道東	12	A 網走市サッカースポーツ少年団	SC釧路U-12	Spo-RE幕別札幌内FC RED	芽室サッカースポーツ少年団GREEN	
			B 北見西サッカースポーツ少年団	プロ*レス*十勝FC U-12	Spo-RE幕別札幌内FC BLUE	根室北斗F.C	
			C 紋別ドルフィンズ	SHIKAOI FC	別海KSC A	富原FC	
	道北	8	A 名寄ビヤリサッカースポーツ少年団	トロンコ旭川	名寄少年団	FC ASTRO	
			B B.N.F.C	VITA FC	ふらのFC	CRECER稚内	

北海道フットサルリーグ						F地域チャンピオンズリーグ					
北海道予選						全国大会					
年	回	開催地	チーム数	結果		回/日程/会場	北海道代表チーム				
2024	25	札幌	10	優勝	Sorpresa十勝	25 2025年3月	Sorpresa十勝				
		旭川他		準優勝	LEVO北海道	三重サンアリーナ	準優勝				
				3位	北海道大学Esperanza	O-PA					

北海道フットサルリーグ ブロックリーグ決勝大会(北海道フットサル地区リーグ決勝大会)						
年	回	開催地	チーム数	優勝	準優勝	第3位
2024	8	札幌	4	D.F Evolve釧路	Diablo	K.K.T Gloria

北海道フットサルリーグ ブロックリーグ					
年	ブロック	チーム数	優勝	準優勝	第3位
2024	7 札幌道央	5	K.K.T Gloria	TRIUMPH	MIRAGE
	道北	5	dispositivo de	MADNESS A.F.C	K*S disfida
	道南	5	Diablo	LEVO	ARIVALUS室蘭
	道東	4	D.F Evolve釧路	Sorpresa十勝カステ*ン*ヤ	FC網走

北海道女子フットサルリーグ(1部)						FUTSAL地域女子チャンピオンズリーグ					
北海道予選						全国大会					
年	回	開催地	チーム数	結果		回/日程/会場	北海道代表チーム				
2024	14	札幌	8	優勝	S.L DasPeed	12 2025年2月	S.L DasPeed				
		旭川他		準優勝	Colmillo	日環アリーナ栃木	1次R敗退	グループC4位(0勝2敗1分)			
				3位	札幌レディース	阪神ユナイテッド*ジャン*ス					

北海道女子フットサルリーグ(2部)						
年	回	開催地	チーム数	優勝	準優勝	第3位
2024	14	札幌他	4	salute	BrillaLula函館	Merienda

全道自治体職員フットサル大会						
年	回	ブロック	チーム数	優勝	準優勝	第3位
2024	19	南	岩見沢	14	名寄F.C	函館市役所サッカー部
		北	名寄	8	名寄F.C	FSC岩見沢
						旭川市役所 F.C

北海道フットサルリーグカップ						
年	回	開催地	チーム数	優勝	準優勝	第3位
2024	13	江別	10	Sorpresa十勝	LEVO北海道	S.L DasPeed
						Safilva北海道

LUXPERIOR CUP 北海道大学フットサルリーグ						
年	回	開催地	チーム数	優勝	準優勝	第3位
2024	20	札幌	8	北海学園大学	北海道大学Esperanza	北海道大学Esperanzaサテライト

U-8・U-10フットサルリーグチャンピオンズカップ						
年	回	開催地	チーム数	優勝	準優勝	第3位
2024	1	札幌	25	ASC北海道U-12	FC志文・栗沢	篠路FCスポーツ少年団

全道U-15フットサル大会兼全日本U-15北海道代表決定戦 ブロック予選						
年	ブロック	チーム数	優勝	準優勝	第3位	
2024	札幌	8	A SSSジュニアユース	石狩フットボールクラブU-15	Rugart FC	HKD FC 2nd
			B HKD FC	札幌大谷中学校	FCフォルテU15	AGGRE U-15
	道央	16	DOHTO Jr ユース	Regaris小樽	バーモス恵庭FC U15	
	道南	3	室蘭町立桜蘭中学校	苫小牧ELSOLE-FC U-15	スプレッド・イーグルFC函館	
	道東	16	北海道コンサドーレ釧路U-15	北見光西中	フロンテッサ勝A	柏陵合同
	道北	8	A 上富良野中学校	EINS FSV	サフォーランド士別SC	稚内南中学校
			B TRAUM VITA FC	潮見が丘中学校	六合中学校	広陵中学校

ビーチサッカー大会北海道予選						
北海道予選				全国ビーチサッカー大会		
年	回	開催地	チーム数	結果	回/日程/会場	北海道代表チーム
2024	19	イタンキ	3	優勝 旭川実業高等学校 準優勝 ARTHOME GARDEN 3位 大鎮キムラ建設BY II	19 2024年10月 沖縄県金武町 レーヴェ横浜	旭川実業高等学校 1回戦敗退

北海道チャレンジドサッカー大会(11人制)						
年	回	開催地	チーム数	優勝	準優勝	第3位
2024	23	栗山	12	札幌NFCトップ	札幌あいの里U-18	豊明&みなみの杜

北海道チャレンジドサッカー大会(8人制)						
年	回	開催地	チーム数	優勝	準優勝	第3位
2024	23	栗山	7 フリー	札幌NFCトップ	豊明&みなみの杜	新高サッカー部&OB
			10 フレンドリー	レッド OKS ブルー HCFF	豊明&みなみの杜B 札幌養&千歳	FCクリア わくわくキッズ笑み

北海道高等養護学校サッカー大会						
年	回	開催地	チーム数	優勝	準優勝	第3位
2024	14	新篠津	8	札幌あいの里高等支援学校	新高サッカー部	みなみの杜高等支援学校
						OKS

北海道チャレンジドフットサル大会						
年	回	開催地	チーム数	フリークラス優勝	準優勝	第3位
2024	24	札幌市	34	札幌あいの里	OKS	みなみの杜高等支援学校

2024年度日本代表各カテゴリー選手/役員(北海道関連)

2025年6月1日現在

なでしこジャパン(日本女子代表) 2024 SheBelieves Cup	
4/1～4/11 @アメリカ	
フィジカルコーチ:大塚 慶輔 オツカ ケiske(日本サッカー協会 ナショナルコーチングスタッフ)	
熊谷 紗希 クマガイ サキ(ASローマ/イタリア)	
U-23日本代表 AFC U23アジアカップ カタール2024	
4/6～5/4 @カタール	
テクニカルスタッフ:渡邊 秀朗 ワタナベ ヒデアキ(日本サッカー協会 テクニカルハウス)	
松木 玖生 マツキ クリウ(FC東京)	
フットサル日本代表 AFCフットサルアジアカップタイ2024	
4/17～4/28 @タイ	
コーチ:高橋 健介 𨵿ハシ ケンスケ(日本サッカー協会 ナショナルコーチングスタッフ)	
U-17日本女子代表 AFC U17女子アジアカップ インドネシア2024	
4/27～5/19 @千葉、タイ、インドネシア	
菊地 花奈 キクチ ハナ(マイナビ仙台レディースユース)	
なでしこジャパン(日本女子代表) 国際親善試合	
5/31～6/3 @スペイン	
フィジカルコーチ:大塚 慶輔 オツカ ケiske(日本サッカー協会 ナショナルコーチングスタッフ)	
熊谷 紗希 クマガイ サキ(ASローマ/イタリア)	
U-23日本代表 国際親善試合	
6/7、6/11 @アメリカ	
テクニカルスタッフ:渡邊 秀朗 ワタナベ ヒデアキ(日本サッカー協会 テクニカルハウス)	
松木 玖生 マツキ クリウ(FC東京)	
なでしこジャパン(日本女子代表) MS&ADカップ2024 ～能登半島地震復興支援マッチ がんばろう能登～ /第33回オリンピック競技大会	
7/11～8/11 @フランス	
フィジカルコーチ:大塚 慶輔 オツカ ケiske(日本サッカー協会 ナショナルコーチングスタッフ)	
熊谷 紗希 クマガイ サキ(ASローマ/イタリア)	
U-23日本代表 第33回オリンピック競技大会	
7/11～8/11 @フランス	
テクニカルスタッフ:渡邊 秀朗 ワタナベ ヒデアキ(日本サッカー協会 テクニカルハウス)	
U-17日本代表 HiFA 平和祈念 2024 Balcom BMW CUP 広島国際ユースサッカー	
8/5～8/11@広島	
コーチ:鈴木 貴浩 スズキ 𨵿ヒロ(日本サッカー協会 JFAコーチ)	
U-17日本女子代表候補 国内トレーニングキャンプ	
8/19～8/22 @千葉	
菊地 花奈 キクチ ハナ(マイナビ仙台レディースユース)	
U-18フットサル日本代表候補 国内トレーニングキャンプ	
9/3～9/6 @高円宮記念JFA夢フィールド	
監督:高橋 健介 𨵿ハシ ケンスケ(日本サッカー協会 ナショナルコーチングスタッフ)	
SAMURAI BLUE(日本代表) FIFAワールドカップ26アジア最終予選(3次予選)	
9/5 @埼玉 9/10 @バーレーン	
テクニカルスタッフ:渡邊 秀朗 ワタナベ ヒデアキ(日本サッカー協会 テクニカルハウス)	

U-17日本代表 第26回国際ユースサッカーin新潟
9/10～9/16 @新潟
川崎 幹大 カサキ 幹大(北海道コンサドーレ札幌U-18)
U-16日本代表 中国遠征PEACE CUP
8/13～9/21 @中国
ドクター:神谷智昭(HKFA医学委員会委員長)
フットサル日本代表 キルギス遠征
9/13～9/24 @キルギス
監督:高橋 健介 勉ハシ ケンスケ(日本サッカー協会 ナショナルコーチングスタッフ)
伊藤 圭汰 イトウ ケイタ(ペスカドーラ町田)
U-17日本女子代表 FIFA U-17女子ワールドカップドミニカ共和国2024
10/4～11/5 @ドミニカ共和国
菊地 花奈 キクチ ハナ(マイナビ仙台レディースユース)
SAMURAI BLUE(日本代表) FIFAワールドカップ26アジア最終予選(3次予選)
10/10 @サウジアラビア 10/15 @埼玉
テクニカルスタッフ:渡邊 秀朗 ワタナベ ヒデアキ(日本サッカー協会 テクニカルハウス)
U-16日本代表 AFC U17アジアカップサウジアラビア2025予選
10/15～10/29 @カタール
ドクター:神谷智昭(HKFA医学委員会委員長)
U-18フットサル日本代表 フランス遠征
10/19～9/28 @フランス
監督:高橋 健介 勉ハシ ケンスケ(日本サッカー協会 ナショナルコーチングスタッフ)
なでしこジャパン(日本女子代表)MIZUHO BLUE DREAM MATCH 2024 韓国女子代表戦
10/26 @国立競技場
フィジカルコーチ:大塚 慶輔 オオツカ ケイスケ(日本サッカー協会)
熊谷 紗希 クマガイ サキ(ASローマ/イタリア)
U-16日本代表候補 国内トレーニングキャンプ
11/10～11/13 @J-GREEN堺
ドクター:神谷智昭(HKFA医学委員会委員長)
U-17日本代表 クロアチア遠征
11/9～11/20 @クロアチア
コーチ:鈴木 貴浩 スズキ 勉ヒロ(日本サッカー協会 JFAコーチ)
SAMURAI BLUE(日本代表) FIFAワールドカップ26アジア最終予選(3次予選)
11/15 @ジャカルタ 11/19 @中国
テクニカルスタッフ:渡邊 秀朗 ワタナベ ヒデアキ(日本サッカー協会 テクニカルハウス)
フットサル日本代表 クウェート遠征
12/9～9/18 @クウェート
監督:高橋 健介 勉ハシ ケンスケ(日本サッカー協会 ナショナルコーチングスタッフ)
伊藤 圭汰 イトウ ケイタ(ペスカドーラ町田)
フットサル日本女子代表候補 国内トレーニングキャンプ
12/18～9/21 @高円宮記念JFA夢フィールド
齊下 遼音 サイカ ハルネ(SWHLレディース西宮)
フットサル日本代表 Indonesia Futsal World 4s Series
1/27～2/4 @ジャカルタ
監督:高橋 健介 勉ハシ ケンスケ(日本サッカー協会 ナショナルコーチングスタッフ)

U-16日本代表 U16アルガルベカップ2025
2/9～2/20 @ポルトガル
テクニカルスタッフ: 渡邊 秀朗 ワタナベ ヒデアキ(日本サッカー協会 テクニカルハウス)
U-19フットサル日本代表 スペイン遠征
2/12～2/20 @スペイン
監督: 高橋 健介 舩ハシ ケンスケ(日本サッカー協会 ナショナルコーチングスタッフ)
なでしこジャパン(日本女子代表) 2025 SheBelieves Cup
2/17～2/28 @アメリカ
熊谷 紗希 クマガイ サキ(ロンドン・シティ・ライオネス／イングランド)
U-19日本女子代表候補 国内トレーニングキャンプ
2/17～2/20 @千葉
コーチ: 鈴木 木乃実 スズキ コミ(日本サッカー協会 ナショナルコーチングスタッフ)
U-15日本代表候補 国内トレーニングキャンプ
2/24～2/28 @Jヴィレッジ
フィジカルコーチ: 大塚 慶輔 オオツカ ケイスケ(日本サッカー協会 ナショナルコーチングスタッフ)
宮園 蒼空 ミヤゾノ ソラ(北海道コンサドーレ札幌U-15)
フットサル日本代表 パラグアイ遠征
3/1～3/11 @パラグアイ
監督: 高橋 健介 舩ハシ ケンスケ(日本サッカー協会 ナショナルコーチングスタッフ)
伊藤 圭汰 イノウエ ケイタ(ペスカドーラ町田)
U-18日本代表 第7回 J-VILLAGE CUP U-18
3/12～3/17 @Jヴィレッジ
フィジカルコーチ: 大塚 慶輔 オオツカ ケイスケ(日本サッカー協会 ナショナルコーチングスタッフ)
SAMURAI BLUE(日本代表) FIFAワールドカップ26アジア最終予選(3次予選)
3/20 @埼玉 3/25 @埼玉
テクニカルスタッフ: 渡邊 秀朗 ワタナベ ヒデアキ(日本サッカー協会 テクニカルハウス)